

点検・整備チェックリスト

✓：異状なし A：調整、注油 △：修理 ×：交換 C：掃除その他 —：装着されていない部品

点 検 の 箇 所		点 検 項 目	販売時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
				1か月	4か月	7か月	10か月	13か月	16か月	19か月
フ レ ー ム ・ フロントフォーク		変形、折損、ヒビ割れはないか								
		ヘッド、ハンガー小物にガタや摩耗はないか								
ハ ン ド ル		固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か								
		変形、折損、軽く回転するか								
ど ろ よ け		変形、取付は適正か								
キ ャ リ ヤ		変形、ガタ、折損はないか								
車 輪		固定は確実か、フレーム、フロントフォークに接触して いないか								
		タイヤ								
リ ム		変形、振れはないか								
ス ポ ー ク		ゆるみ、折れ曲がり、切損はないか								
ハ ブ		ハブナットのゆるみ、玉押しのガタはないか								
ギ ャ ク ラ ン ク		ギヤ板の振れ、ヒビ入り(軽合金)、曲がり、ガタはない か、締付は充分か								
ペ ダ ル		固定は確実か、取付部(クランク側) にバリはないか								
		軸の回転は正常か、変形、カシメ、ねじのゆるみ、ガタ、 折損はないか								
ブ レ ー キ		効き具合は適正か								
		レバーの引き代に余裕はあるか、ワイヤ類にサビやほ つれはないか								
		ブレーキゴム類(ブレーキブロック、パッド、ライニング) の減りはないか								
変 速 機		作動は確実か								
ベ ル ト		ヒビ入り、歯欠け、折損はないか、張りは適正か								
チ ェ ー ン		油切れ、たるみはないか、ギヤとの噛み合わせは適正か								
サ ド ル		固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
		取付位置、ガタ、損傷はないか								
ラ イ ト		点灯、照射は正常か、破損はないか、コード切れはないか								
リ フ レ ク タ ー		汚れ、ガタ、破損はないか、点灯(テールランプ付) は正常か								
ス タ ン ド		作動は正常か、ガタ、変形、折損はないか								
ベ ル ・ ブ ザ ー		作動は正常か、変形、ゆるみはないか、よく鳴るか								
錠		作動は正常か、変形、ゆるみはないか								
そ の 他		各部のねじのゆるみ、損傷はないか								
注 油 箇 所		チェーン、ワイヤ、変速機、ブレーキレバー、スタンドの 支点、バッテリーロックキー穴、サークル錠キー穴								
実施店		実施者氏名	実施日	年	年	年	年	年	年	年
				/	/	/	/	/	/	/
保証書に印字されている品番および車体番号を転記してください		確認印								
品番	車体番号									

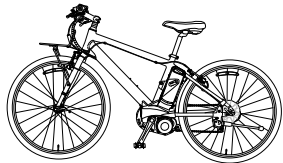
パナソニック サイクルテック株式会社

〒 582-8501 大阪府柏原市片山町 13 番 13 号

Panasonic®

取扱説明書 電動アシスト自転車

品番 BE-ENHC344
BE-ENHC349



JETTER



※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

保証書別添付



自転車のルールを守って、安全走行

- 止まって確認、らくらく発進
- ライトをつけて、らくらく走行

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよく読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(4～11ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
- 製品を他の人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

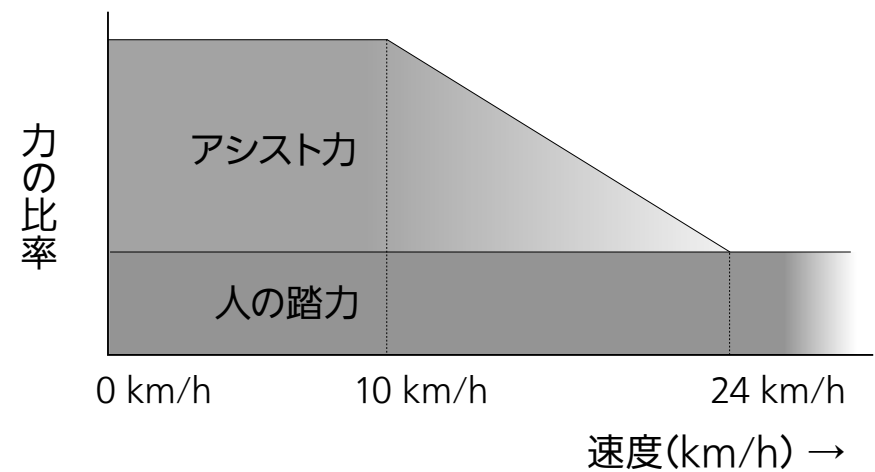
お願い

- この自転車は、散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。
- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- 万が一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
- 必ず、販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。(法令で義務付けられています。)

お買い求めいただいた自転車は、電動補助(アシスト) システムが付いた自転車です。
電動アシスト自転車は、普通の自転車と異なった部分があります。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく、安全、快適にお乗りください。

◆お買い求めいただいた電動アシスト自転車の特長

- ①免許証が不要です。
電動アシスト自転車は、運転免許証無しで乗ることができます。
- ②アシスト力の働きで楽に乗れます。
ペダルを一定以上の力で踏むとアシスト力が働き、自転車よりも軽い踏力で走行できます。
改正された道路交通法施行規則(2008 年) 適合モデルです。
☆下のグラフは「人の踏力」と「電動のアシスト力」との関係をイメージで表しています。
 - ・アシスト力とアシストが働く速度範囲は、アシストモード、変速位置により変化します。
 - ・乗る人の踏力、道路の状況、乗員と積載荷物を含む総質量の条件により楽になる度合に差が生じます。
 - ・アシスト率(人の踏力と電動のアシスト力との比率) は約 10 km/h から徐々に下がっていきませんが、バッテリー(電池) の電力消費は 20 km/h 付近で最大となります。
 - ・お買い求めいただいた電動アシスト自転車のアシスト力の変化は 36 ページをご覧ください。
- ③バッテリーが切れても、普通の自転車として走行できます。
夜間ライトがつかないときは、押して歩いてください。点滅状態や無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。
- ④スピードメーター付きマルチコントロールサイクルメーターを装備しています。
マルチコントロールサイクルメーターには、速度、距離、電池残量の表示機能やアシストモード切替ボタンなどが装備されています。
- ⑤リチウムイオンバッテリーを使用しています。
メモリー効果※の心配がなく、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。
※メモリー効果とは、継ぎ足し充電を何度も繰り返すことで見かけ上のバッテリーの性能が低下する状態のことです。



お知らせ

- 次のようなときはアシスト力は働きません。
 - ・時速が 24 km/h 以上のとき。
 - ・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。
 - ・バッテリーの残量がなくなったとき。
 - ・オートオフシステムが働いたとき。(電源が入った状態で 10 分以上ペダルを踏まなかったとき、自動的に電源が切れます。再度走行するときは、電源を入れてください。)

もくじ

はじめに

- 安全上のご注意 (1) (2) (3) (4) 4
- 各部のなまえ (1) (2) 12

充電のしかた

- 充電しましょう (1) (2) 16

乗るまえに

- 乗るまえの点検と調整 (1) (2) (3) (4) (5) (6) 19
- 乗るまえの確認 (1) (2) 30

乗りかた

- さあ、乗りましょう！ (1) (2) (3) 34

乗ったあと

- 乗ったあとの駐 輪・施 錠 39

必要なとき




- バッテリーについて 40
- 運搬／保管／廃棄 41
- お手入れ／注油について 42
- 定期点検／アフターサービスについて 44
- 自転車安全基準／ BAA マーク／点検整備済 TS マークのご紹介 45
- 故障かな？！ (1) (2) 46
- 盗難補償 50
- オプション (別売部品) 51
- 仕 様 52

安全上のご注意(1)





必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。


■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	危険	「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。
	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。


■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

		してはいけない内容です。
		実行しなければならない内容です。
		気をつけていただく内容です。


本体


**警告**


■サドルは「はめ合せ限界標識」が見える状態で乗らない

シートポストの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。



■改造や分解、また指定以外の注油はしない

部品の破損や、ブレーキが効かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

分解禁止


注油禁止

■ハブステップなどの突出物を装着しない




歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。



■調整後の締め付けを確認せずに乗らない(車輪の脱着やサドル・バッテリー・ライトなど)

車輪などが外れて、転倒によるけがのおそれがあります。

※バッテリー本体にも表示しています。

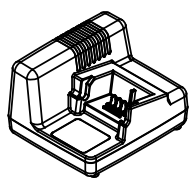

**危険**

■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーですこの機器以外に使用しない





専用の充電式バッテリー

■専用充電器を使用してください

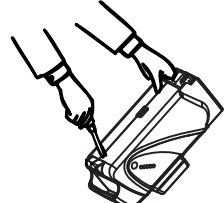



■火への投入、加熱をしない





発熱、発火、破裂の原因となります。

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない

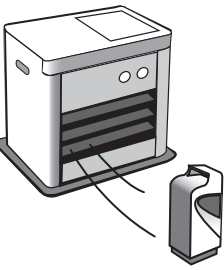



分解禁止


■(+) と(−) を金属などで接触させない
ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しない




■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置をしない



発熱、発火、破裂の原因となります。


**警告**

■水を入れたり、水中に投下しない


端子部から水を入れるとショートして、発熱、発火破裂の原因となります。

●バッテリー内部に明らかに水が浸入したと思われる場合は使用を停止し、販売店で点検をうけてください。

■傷ついたまま使用しない

ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれがあります。

■大雨等で自転車本体(バッテリー部)が水に浸かった場合、使用しない

不意にアシストが停止する場合があります。あり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

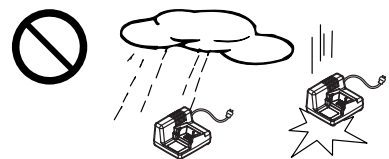
●本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨等によりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検をうけてください。

5

安全上のご注意(2) 必ずお守りください

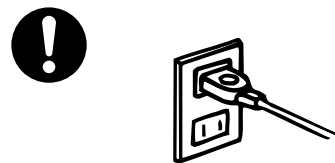
警告

■衝撃を与えたり、落下や水濡れ、高湿度な場所での使用はしない



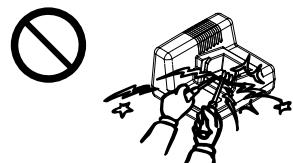
発熱、発火、感電のおそれがあります。

■電源プラグは根元まで確実に差し込む



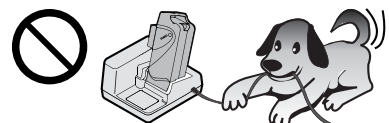
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

■充電端子を金属でショートさせない



発熱、発火、感電のおそれがあります。
●充電しないときは、端子カバーをかぶせておいてください。

■幼児やペットが触れる所に放置しない



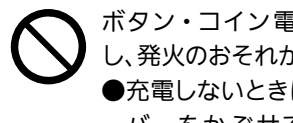
感電・故障・火災の原因になります。

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



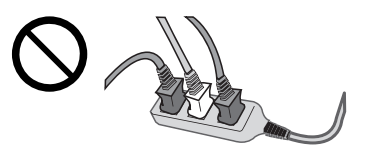
ぬれ手禁止
感電のおそれがあります。

■充電端子部にボタン・コイン電池を接触させない



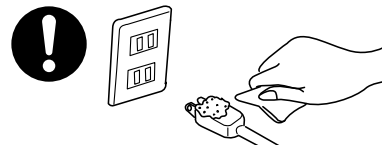
ボタン・コイン電池が破裂し、発火のおそれがあります。
●充電しないときは、端子カバーをかぶせておいてください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない



たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■充電端子や電源プラグのほこり等は定期的にとる



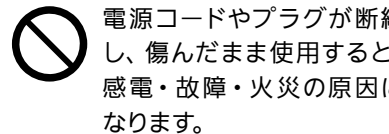
ほこりがたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
●電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない)



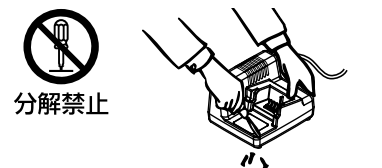
傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因になります。
●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

■電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない



電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因になります。

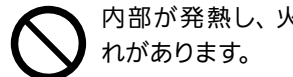
■当社電動アシスト自転車電池の充電以外の使用、また分解、改造は絶対しない



分解禁止

バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。

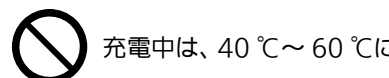
■充電中はカバーをしたり、上に物を置かない



内部が発熱し、火災のおそれがあります。

注意

■充電中は長時間、皮膚の同じ場所で触れない

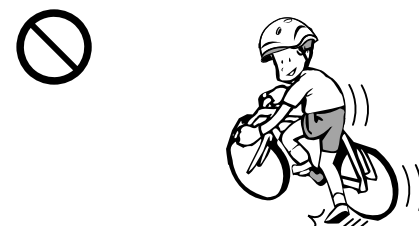


充電中は、40℃～60℃になる場合があります、低温やけどのおそれがあります。

電動アシスト自転車を安全に乘るために

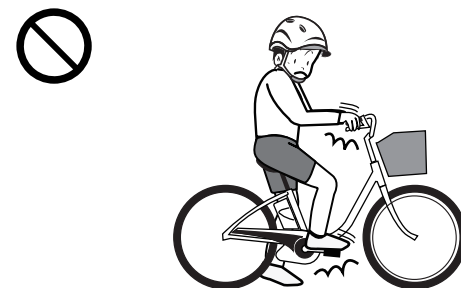
警告

■けんけん乗り(けり乗り)しない



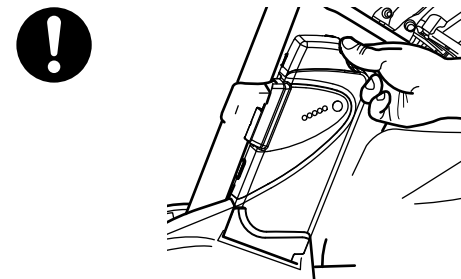
転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。
●必ずサドルにまたがって、発進してください。
※けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

■停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



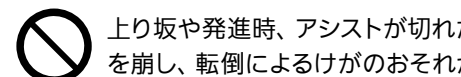
不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

■バッテリーが確実に装着されているか確認する



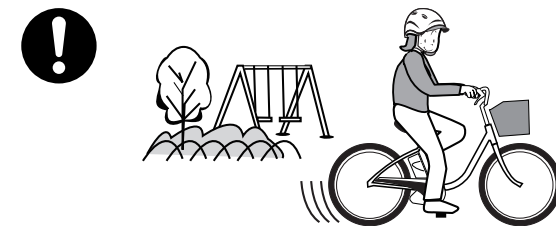
走行中にバッテリーが脱落し、転倒によるけがのおそれがあります。

■走行中、マルチコントロールサイクルメーターの電源を入り切りしない



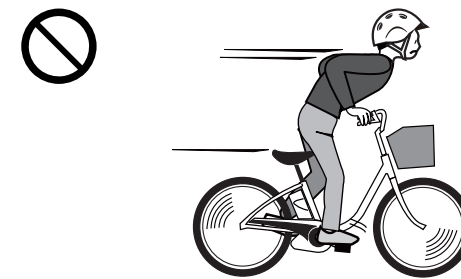
上り坂や発進時、アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。
●必ず停止して、電源の入り切りをしてください。

■電動アシスト自転車になれるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場等)で十分練習する



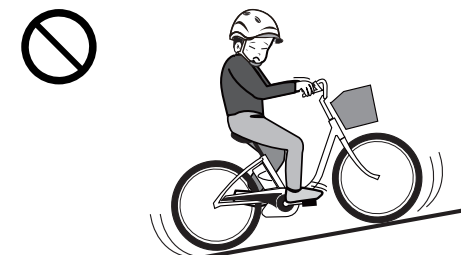
転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
●電動アシスト自転車になれるまでは「エコモード」で走行してください。

■発進時は、ペダルを強く踏み込まない



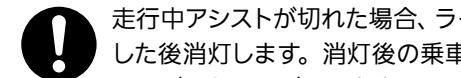
思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
●一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■バッテリー残量が少ない状態(バッテリー残量表示部が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない



アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認する



走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯した後消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。点滅状態や無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

安全上のご注意(3)

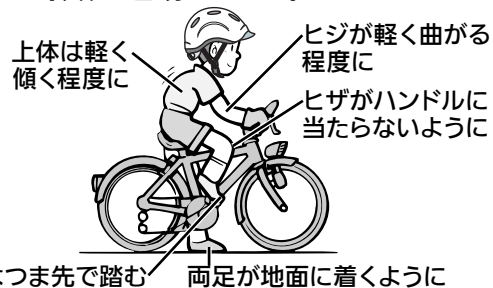
必ずお守りください

はじめて

■乗るまえに

まず体に合わせてください

- 図のように販売店で調整してもらってください。
- 操作して確認してください。
 - ①円滑なペダリングができる。
 - ②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
 - ③ハンドル操作が容易にできる。



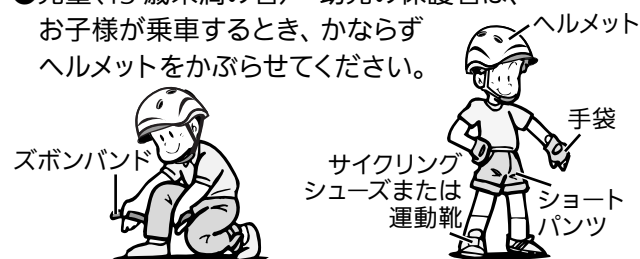
必ず点検をしてください

- 必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
- わからないときは販売店に相談してください。
- 未組立および未調整の自転車は使用しないでください。



安全な服装で乗ってください

- (車輪に巻き込まれやすい服装はしない)
- ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っかかり等を防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
 - 児童(13歳未満の者)・幼児の保護者は、お子様が乗車するとき、かならずヘルメットをかぶらせてください。



乗る練習は必ず行ってください

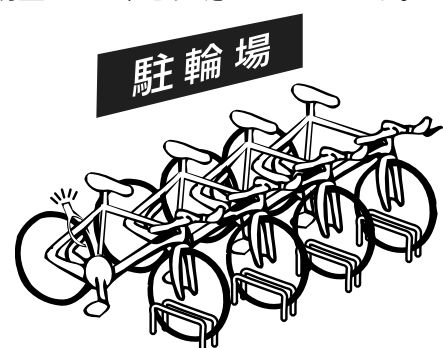
- 練習を空地や公園など安全な場所で、行ってください。
- よく練習してから一般道路でお乗りください。



■乗ったあとは

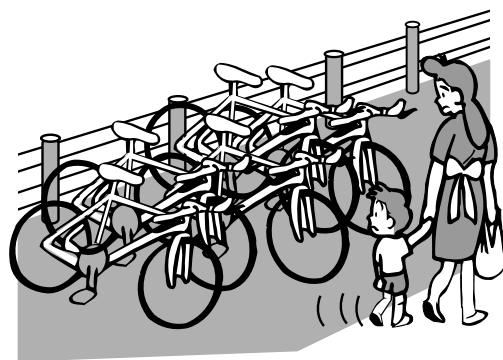
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、他の人に迷惑にならないよう、決められた場所に止めましょう。
- 盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。



自転車放置禁止

- 自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。

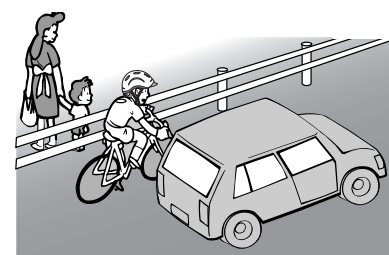


■自転車の交通安全ルールを守りましょう

※違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

自転車は、車道通行が原則です

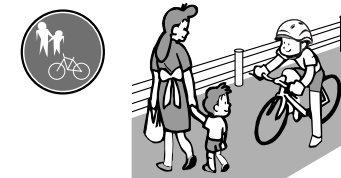
- 歩道と車道の区別のあるところは自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。



次の様な場合は、歩道通行ができます

(その時にも歩道は歩行者優先、車道よりを徐行)

- 自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
- 車道や交通の状況からみてやむを得ない場合。



30 kg を超える荷物を積載しない

- ただし、自転車や取扱説明書等へ積載条件の記載がある場合はそちらを守ってください。



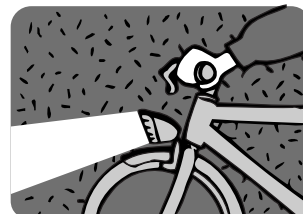
交差点では一時停止と安全確認を

- 一時停止の標識を守り、広い道に出る時は、徐行と安全確認を。
- 信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。



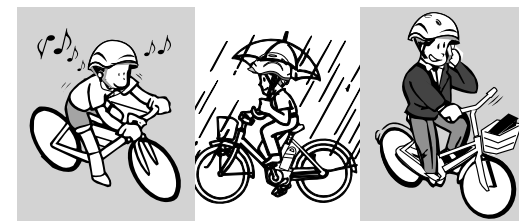
夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行しましょう

- 夜の点滅状態や無灯火での運転は交通違反です。
- 暗いところではライトを点けて通行しましょう。



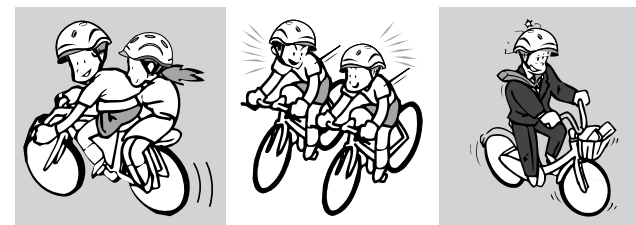
次の様な運転はしない

- ヘッドフォンを使用しながらの運転。
- 傘さし運転。
- 携帯電話を操作しながらの運転。



二人乗り、並進、飲酒運転は禁止

- 6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合等を除き、二人乗りは禁止です。(幼児二人同乗用自転車を除く)
- 「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。
- 飲酒運転は禁止です。



はじめて

安全上のご注意(4)

必ずお守りください

けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために、乗り方や交通ルールを守りましょう。
安全のため、ヘルメットの着用をおすすめします。

交通事故を防ぐために

自動車や子供に注意！

安全を確認し、乗りましょう

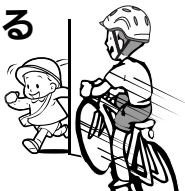
車の横を走る
ときに！



開くドアや人の飛び出しに注意する



学校や公園が
近くにある
ときに！



子供の飛び出しに
注意する



交差点を通る
ときに！



左折車に巻き込まれ
ないように注意する



転倒事故を防ぐために

こんな時

■雨・風・雪のひどいときは乗らない



バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

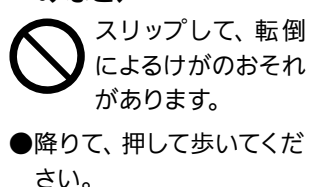
■合図以外は、ハンドルから手を離さない



バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。

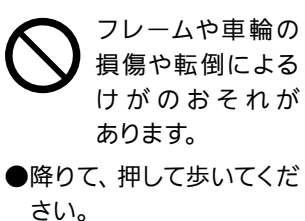
こんな場所

■滑りやすいところでは乗らない(積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど)



スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
●降りて、押して歩いてください。

■凹凸の激しいところを走らない(歩道の段差や、溝など)



フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。
●降りて、押して歩いてください。

こんな乗り方

■巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)



車輪やギヤに巻き込まれ、転倒によるけがのおそれがあります。

■かさやステッキ、釣りざお等を車体に差し込んで乗らない、釣り下げたりして乗らない



車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。

■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない



ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない



荷物やひもが、車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■土踏まずやかかとでペダルを踏まない



カーブでつま先が前車輪にあたり転倒によるけがのおそれがあります。

■カーブで曲がる側のペダルを下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

こんな使い方

■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



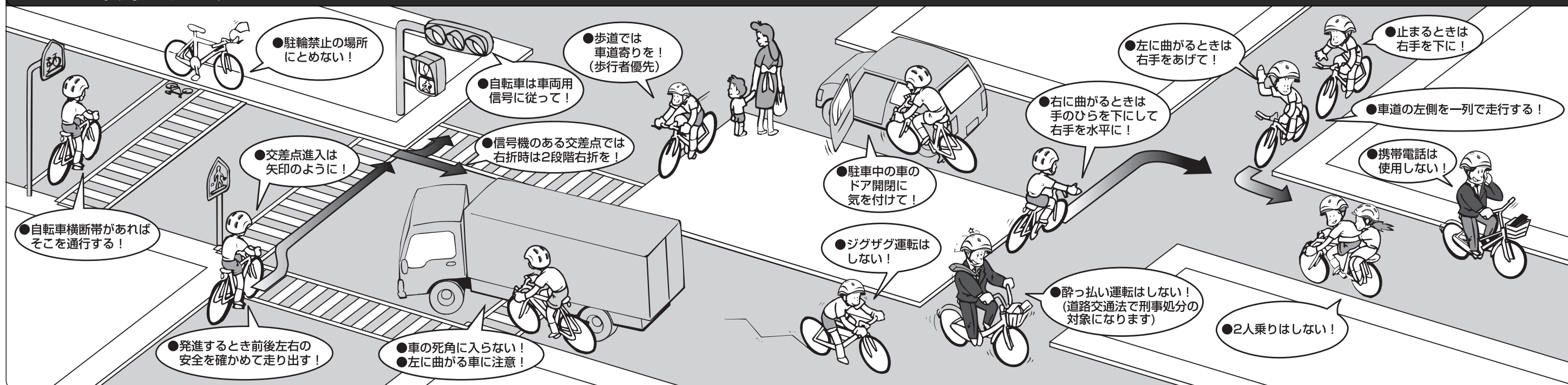
転倒によるけがのおそれがあります。

■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない



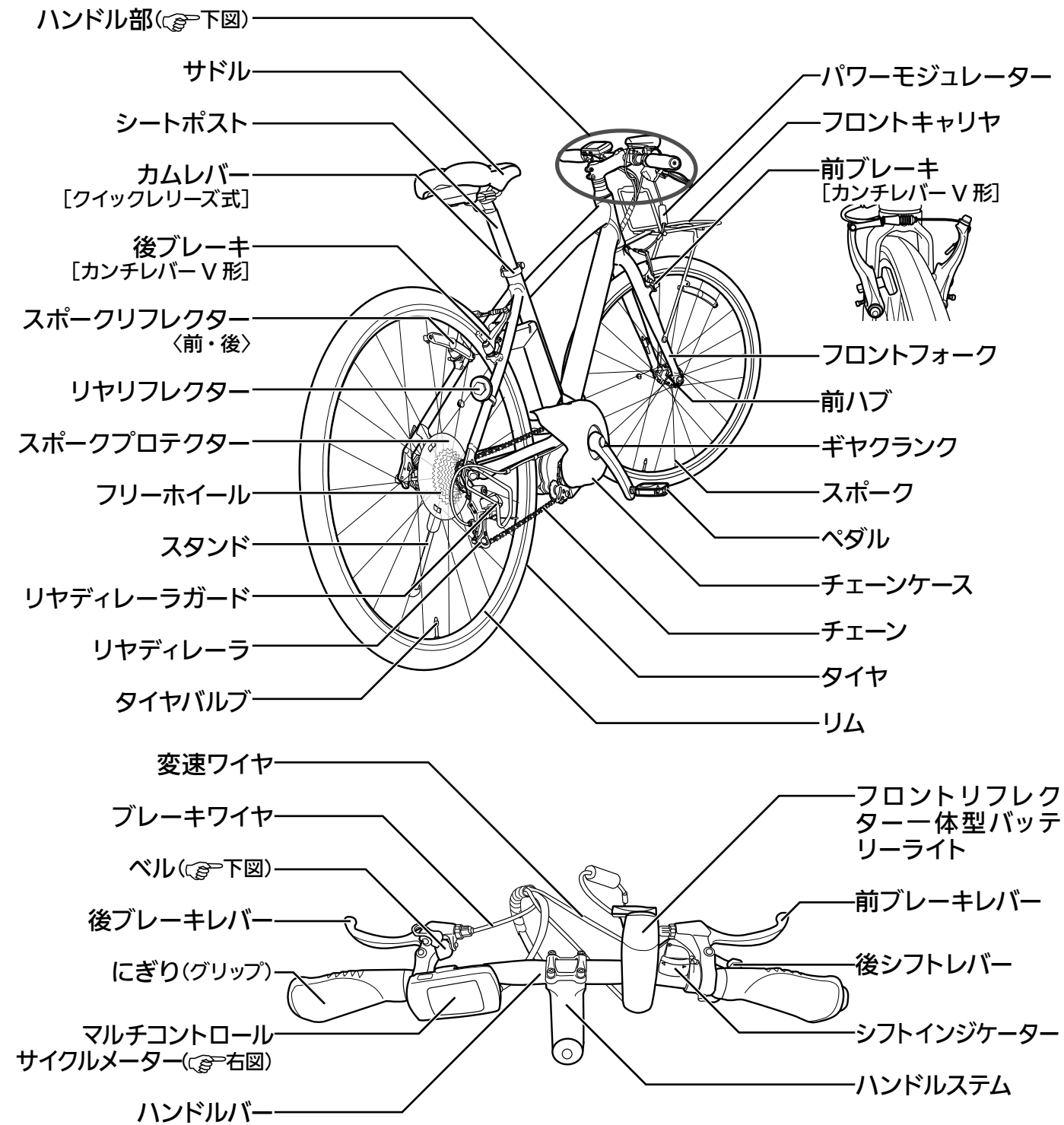
車輪に巻き込まれて転倒によるけがのおそれがあります。

自転車で道を走る時のルール・マナー

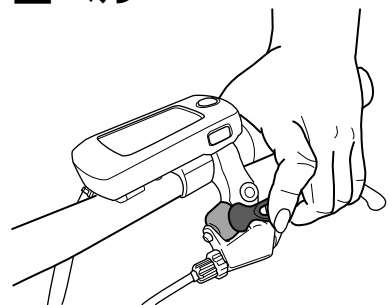


各部のなまえ(1)

はじめて

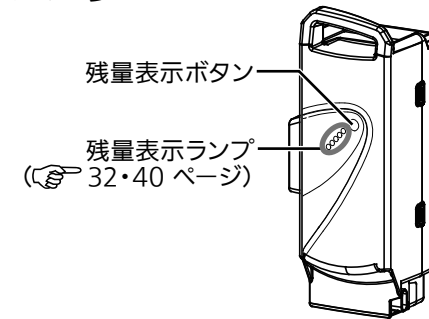


■ベル



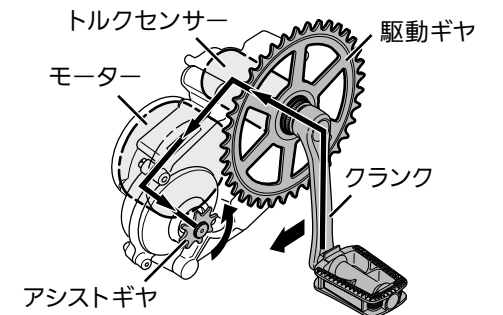
ベルの操作は、左図のように人差し指で行ってください。

■バッテリー



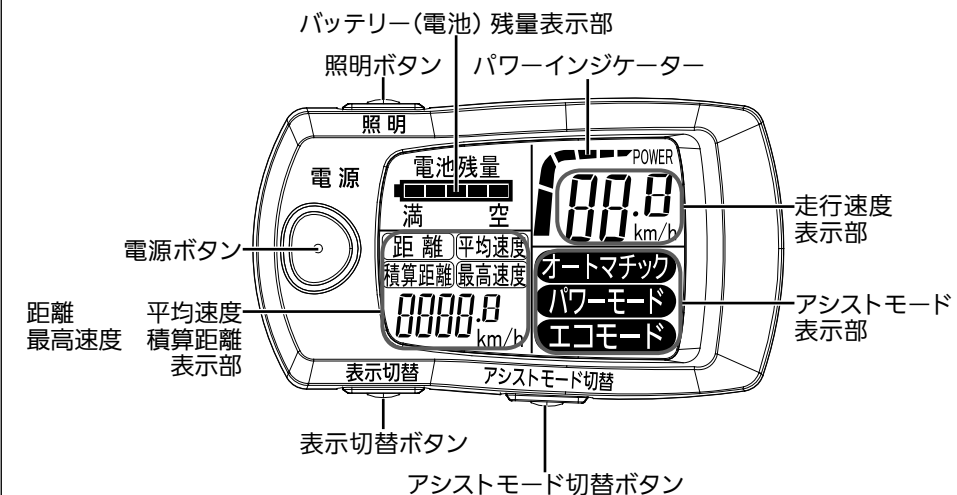
●バッテリーの容量
(32 ページ)

■駆動ユニット



ペダルの踏力を、クランクを通じてトルクセンサーで感知し、最適なアシスト力をモーターからアシストギヤへ伝えることにより、快適なアシスト走行を実現しています。

■マルチコントロールサイクルメーター

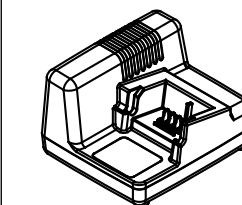


※機能説明のため、全項目を表示しています。実際の表示とは異なります。
詳しくは別紙「マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書」をご覧ください。

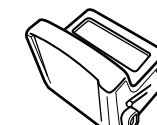
■付属品

自転車本体の他に下記のものすべてが含まれていることをご確認ください。

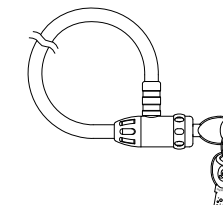
- 充電器
- 保証書
- スペアキー(2本)
- 端子カバー
- 保証書メーカー控(返送用)封筒
- キーキャップ
- 取扱説明書
- 乗りかたカード
- ワイヤ錠



充電器
(16 ~ 17 ページ)



端子カバー
(16 ~ 17 ページ)



ワイヤ錠



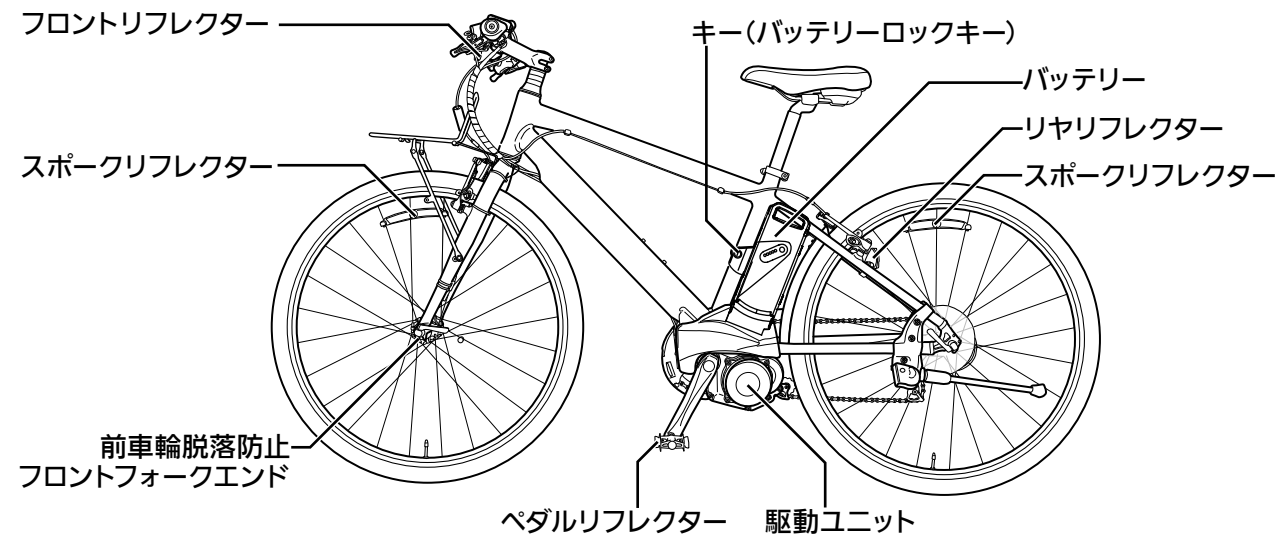
警告

■走行時ワイヤ錠を車輪の近くやハンドルにぶらさげない

スポークに巻き込んだり、ハンドルがとられて転倒によるけがのおそれがあります。

●充電のしかた
(16 ~ 18 ページ)

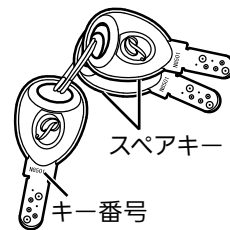
各部のなまえ(2)



■キー(バッテリーロック/ワイヤ錠)

お願い

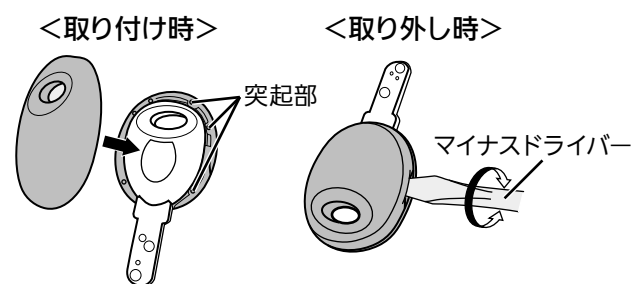
- キーの番号は、キー本体と保証書に記載されています。キーは、紛失しないよう大切に保管し、キー番号は控えておいてください。(キー本体と保証書にキー番号が記載されていますが、本取扱説明書の 55 ページのキー番号欄に記入しておかれることをお勧めします。)
- キーを紛失された場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。その際には、保証書とキー番号が必要です。必ずご持参願います。



お知らせ

- ワイヤ錠のみ交換された場合は、キーが 2 種類になります。
- キーキャップの取扱いについて

- ・ キーの持ち手部分に右図のようにおもてうら両面からはめ込みます。(おもてうらは共通です)
- ・ はずす時はマイナスドライバー等をサイドのミゾにはめ込みひねってください。



お知らせ

- 落下等の強い衝撃をあたえないでください。破損や外れるおそれがあります。
- 長期間光の当たる所に放置しますと色あせすることがあります。



注意

■幼児の手の届く所に置かない

- 誤って飲み込むと喉を詰まらせたり、内臓を痛める原因となります。
- 万一飲み込んだ場合には直ちに医師に相談してください。



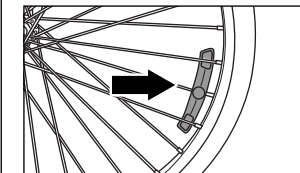
警告

■安全装置は取り外さない

- 外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれがあります。

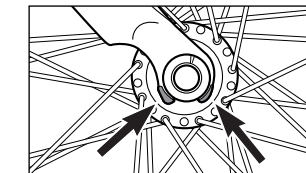
■安全装置

スポークリフレクター



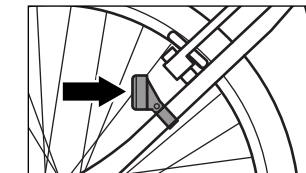
横からの光を反射します

前車輪脱落防止 フロントフォークエンド



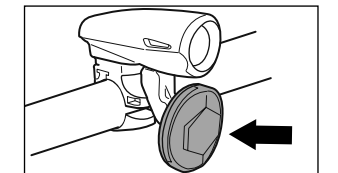
前車輪の脱落を防止します

リヤリフレクター (後部反射器)



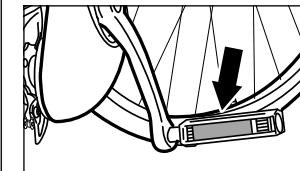
後からの光を反射します

フロントリフレクター (前部反射器)



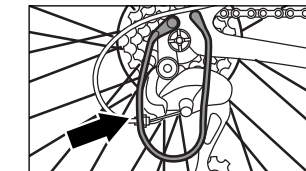
前からの光を反射します

ペダルリフレクター



前後からの光を反射します

リヤディレーラガード



衝撃によるリヤディレーラの破損を防止します

※リフレクターが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(リヤリフレクターが破損したままでの夜間乗車は法令違反になります。)

■品番および型式認定済 TS マーク(保険なし)

- この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示する事ができるもので、安心して自転車としてご利用頂ける証明です。
- 右上の英数字は車種品番、左上の TS は型式認定済 TS マークを表しています。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。保険付き TS マークの貼付については 45 ページを参照ください。

型式認定済 TS マーク

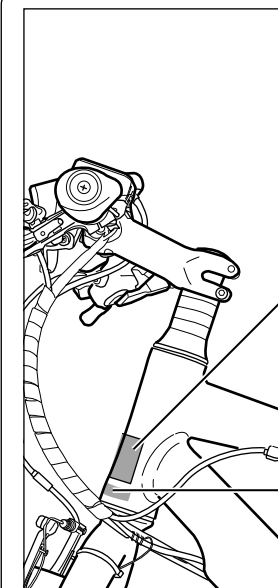


車種品番

※マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。

■車体番号(刻印位置)

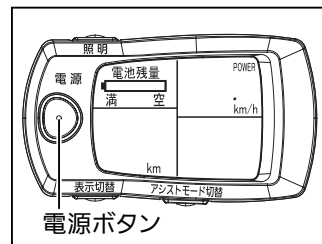
防犯登録に必要で、9 文字(数字と英字)で表示しています。



充電しましょう(1)

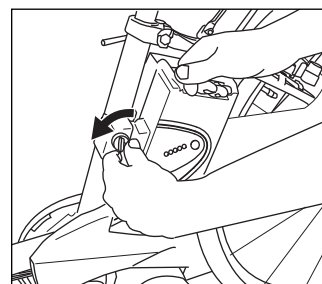
バッテリーは酷暑、酷寒、衝撃を避けるのが上手な使い方です。

1. マルチコントロールサイクルメーターの電源を切る

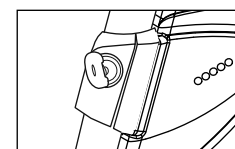
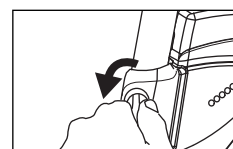


マルチコントロールサイクルメーターの電源ボタンを押して電源を切る。
(液晶表示消灯)
※電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。
詳しくは別紙「マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書」をご覧ください。

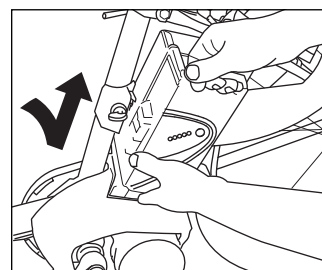
2. バッテリーロックを外し、バッテリーを引き上げる



バッテリーを支え、バッテリーロックキーを反時計方向に 60 度回す。
(開錠状態のままキーを固定できます。)
バッテリーをゆっくり手前に倒す。



開錠状態のまま固定が可能
(この状態ではキーは抜けません)



両手で支えながら引き上げて外す。バッテリーロックキーを時計方向に 60 度戻しキーを抜く。



注意

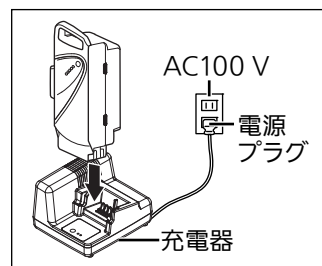
■バッテリーを支えてからバッテリーロックキーをまわす

❗ 落下し、けがをするおそれがあります。

お願い

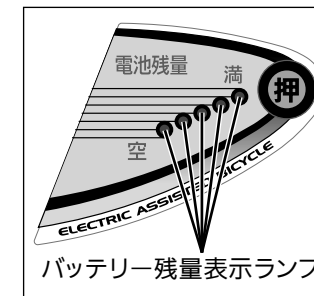
- バッテリーを取り外した後、バッテリーロックキーを抜き、保管してください。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりがつかないように、付属の端子カバーを装着してください。

3. バッテリーを充電器にセットする



電源プラグをコンセント(AC100 V)に差込み、バッテリーを充電器に奥まで押し込む。

4. 残量表示ランプを確認する



バッテリーの残量表示ランプの点灯(赤色)を確認する。
(充電状態に応じた表示になります。)

残量表示ランプ点灯・点滅
(充電中)

残量表示ランプ消灯
(充電完了)

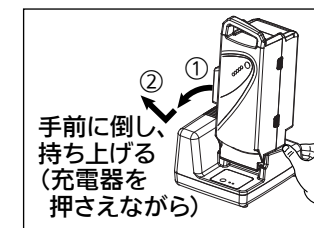
お願い

- 充電時間の目安は仕様表(52 ページ)をご覧ください。

お知らせ

- 走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します。
(周囲の温度にもよりますが、充電開始までに 1～2 時間かかる場合があります。)

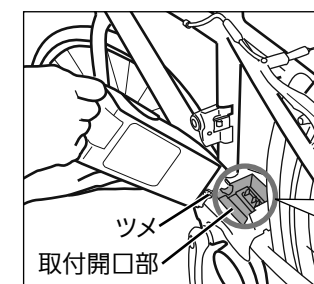
5. バッテリーを充電器から外す



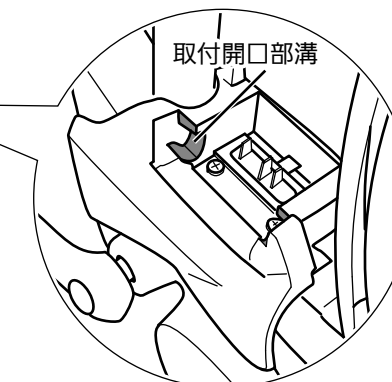
残量表示ランプが消灯(充電完了)していることを確認し、充電器を押さえながらバッテリーを外した後、コンセント(AC100 V)から電源プラグを抜く。

※充電器の待機消費電力は仕様表(52 ページ)をご覧ください。

6. 自転車の取付開口部から端子カバーをはずし、バッテリーを乗せる



取付開口部溝とバッテリーのツメを合わせながら乗せる。
(残量表示ランプのある面を手前にする。)

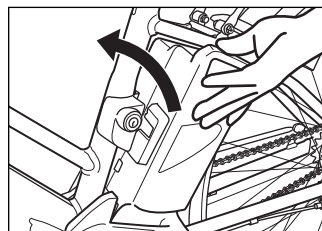


お願い

- 汚れやほこりがつくのを防ぐため、取り外した端子カバーは、充電器の充電端子部にかぶせておいてください。

充電しましょう(2)

7. バッテリーを起こす



バッテリーを「カチッ」と音がするまで、垂直に起こす。
(バッテリーのカドを支点にして、弧をえがくように起こす。)

お願い

- 装着後、バッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。

注意

■バッテリーが確実に装着されたことを確認する

- 落下し、けがをするおそれがあります。

■バッテリーとフレームの間に指を入れない

- 指を挟み、けがをするおそれがあります。

充電するときのポイント

お願い

- 初めて乗る時や 1 か月以上乗られていない場合は、必ず充電してください。(出荷時は、満充電していません。)
- 充電時の周囲気温は、5℃～35℃の場所で充電してください。(結露しないようご注意ください。)
- 充電器には、水やほこりがたまらないよう、ご注意ください。
- 雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください。(充電器内に水が入って故障の原因になります。)
- 充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください。(充電中の熱により、ケース等が変形するおそれがあります。)
- 使用しなくても、3 か月に一度は充電してください。(P.40 ページ)
- テレビ・ラジオなどのそばで充電をすると、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりする場合があります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど) 充電を行ってください。

お知らせ

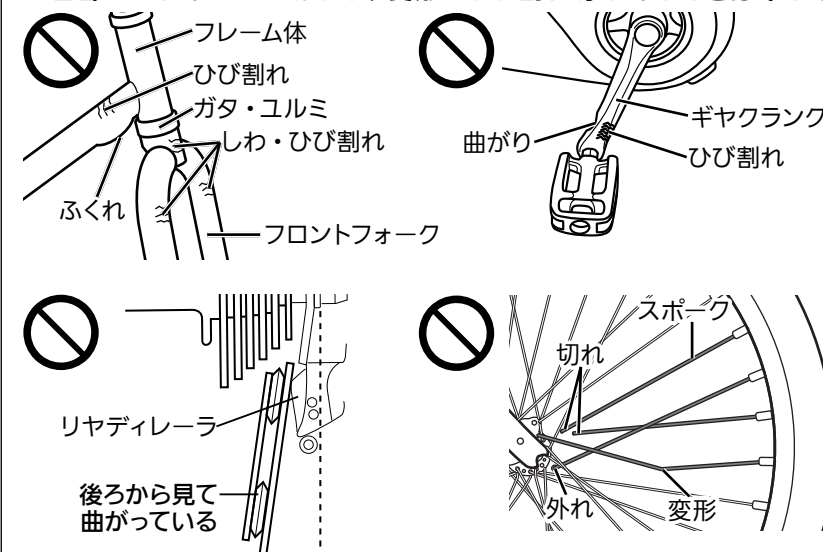
- バッテリー保護の為に、満充電からの再充電はできません。
 - バッテリー温度が低い場合は、充電時間が長くなります。
 - リチウムイオンバッテリーは、メモリー効果がありませんので、リフレッシュ充電※は不要です。
- ※リフレッシュ充電とは、バッテリー性能を回復させるため一度放電させた後、充電を行うことです。

乗るまえの点検と調整(1)

安全にご乗車いただくため、乗るまえにつぎの点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

警告

■各部にガタやユルミおよび、変形・ひび割れ等があるときは乗らない



折れて転倒による、けがのおそれがあります。

- ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わった後は、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常がないか点検してください。
- スポークが 1 本でも切れたまま使用を続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。
- ハンドルを締め付けてもガタ・ユルミがあるときは、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検をしてください。
- 車輪に振れが出た場合、販売店にスポークテンションの調整をご依頼ください。

■乗るまえの点検は、必ず実施する

- 事故や転倒によるけがのおそれがあります。
- 前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。
- ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検してください。
- 前後車輪が、確実に固定されているか点検してください。
- 前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。
- バッテリーが確実に装着されているか確認してください。
- ワイヤ類(ブレーキ、変速機、マルチコントロールサイクルメーターコード、バッテリーライトコードなど) がたるんでいないか確認してください。

■点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは乗らない

- 事故や転倒によるけがのおそれがあります。
- 異常があったときは販売店にご相談ください。

■フロントフォークは、一度でも大きな転倒や衝突をした場合、外観に損傷がなくても使用しない

- 折れて転倒によるけがのおそれがあります。

■自転車部品の点検（電源を切った状態で行ってください）

リヤリフレクター (25 ページ)

◎割れや、汚れはないか？

◎後からの光を反射する角度になっているか？

サドル・シートポスト (23 ページ)

◎サドルに座って、両足が、地面に着くか？

◎はめ合せ限界標識が、見えていないか？

◎シートポストの固定は、確実か？

にぎり

◎ひび割れはないか？

◎抜けはないか？ ◎回らないか？

ベル

◎よく鳴るか？ ◎固定は確実か？

ハンドル・ハンドルステム (22 ページ)

◎ハンドルの固定は、確実か？

フロントリフレクター・一体型バッテリーライト (25・27 ページ)

◎点灯するか？

◎がたつきは、ないか？

◎取付角度は適切か？

◎割れやがたつき、汚れはないか？

◎前からの光を反射する角度になっているか？

ブレーキレバー〈前後とも〉

◎よく効くか？

◎ワイヤのさびやほつれはないか？

◎固定は確実か？ ◎作動は円滑か？

ブレーキ (ブレーキブロック) 〈前後とも〉 (26 ページ)

◎すりへっていないか？

◎異物は付いていないか？

スポークリフレクター〈前後とも〉

◎割れやがたつきは、ないか？

フロントフォーク

◎ひび割れやふくれはないか？

カムレバー (28～29 ページ)

◎車輪にがたつきは、ないか？

ペダル・クランク

◎がたつきは、ないか？

◎ひび割れはないか？

ペダルリフレクター

◎割れやがたつき、汚れはないか？

チェーン

◎空回りしないか？

◎小石等が挟まってないか？

◎歯飛びや異常な音 (バリバリ音等) はないか？

◎油切れはしていないか？

リヤディレーラ

◎後ろから見て曲がりはないか？

車輪〈前後とも〉

◎リム…… 振れ、変形はないか？

◎スポーク… 曲がり、折れはないか？

◎ハブ……… がたつきはないか？

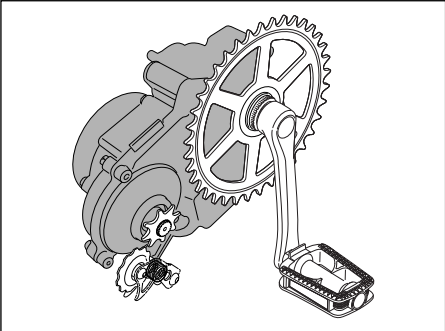
◎タイヤ…… 摩耗、切傷はないか？

◎異物は付いていないか？

◎空気圧は適正か？ (24 ページ)

■駆動ユニット、マルチコントロールサイクルメーター、バッテリーの点検

●駆動ユニット



電源を入れたとき

◎異常な音はしていないか？

◎異臭はしていないか？

◎モーター部や底部が高温になっていないか？

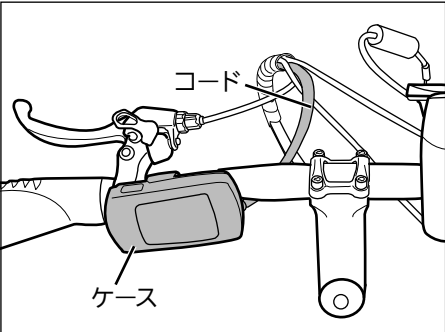
外観を見て

◎バッテリー取付端子部が汚れていないか？ (42 ページ)

ペダルに力を加えてみて

◎駆動ユニットがフレームに対してがたついていないか？

●マルチコントロールサイクルメーター



電源を入れたとき

◎液晶画面が表示されるか？ (34 ページ)

◎照明ボタンを押すと液晶バックライトおよびバッテリーライトは点灯するか？ (27 ページ)

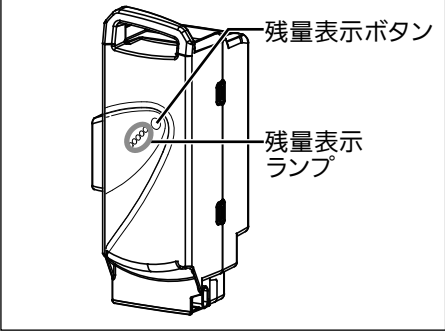
外観を見て

◎マルチコントロールサイクルメーターのケースや操作スイッチ部にひび割れ等がないか？

◎ハンドルを曲げたとき、マルチコントロールサイクルメーターコードが突っ張っていないか？

※詳しくは、別紙「マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書」をご覧ください。

●バッテリー



残量表示ボタンを押したとき

◎残量表示ランプが点灯するか？ (32 ページ)

外観を見て

◎ケースにひび割れや変形、ねじのゆるみ等はないか？

車体に装着してみて

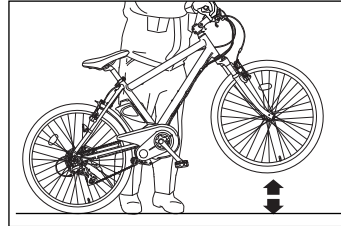
◎車体に装着したとき、しっかりと車体にはまっているか？ (18 ページ)

乗るまえの点検と調整(3)

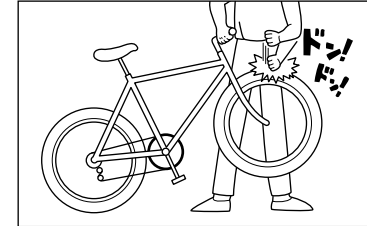
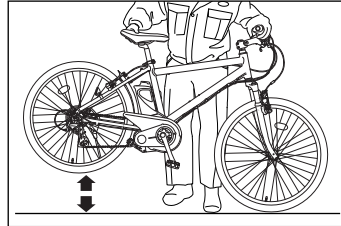
わからないときは、販売店にご相談ください。

■各部のゆるみ

●車輪の締め付け部

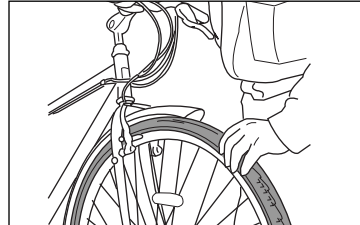


車輪を 10 cm 程度の高さから落とし、車輪などの締付部ががたつきがないこと。(前後とも)



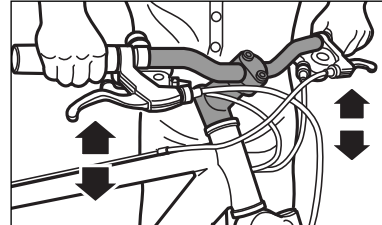
車輪を浮かせ強くたたいても、がたつきがないこと。

●車輪の振れ



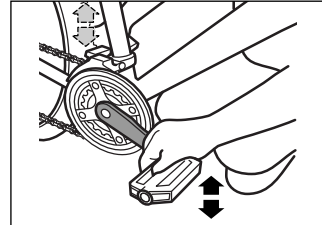
少し持ち上げ回転させ、上下左右に大きくふれないこと。

●ハンドルバー



バーを手で持って、上下に強く力を加えても、動かないこと。

●ギヤクランク



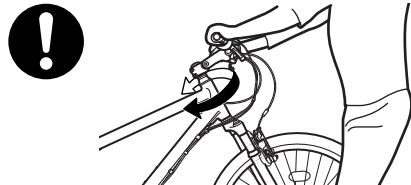
左右交互に力を加えても、がたつかないこと。
スムーズに回転すること。

■ハンドルの高さ調整(販売店に依頼してください)



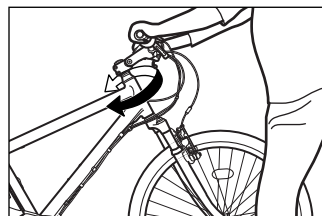
警告

■乗るまえの点検は必ず実施する

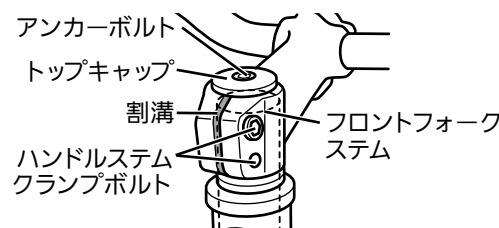


事故や転倒によるけがのおそれがあります。

●ハンドルの点検



左右に強く力を加えても、動かないこと。



お願い

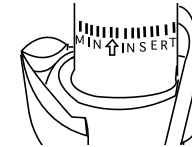
- ハンドルの高さ角度・調節は販売店にご相談ください。
- アンカーボルトはフロントフォーク回転部のがたつきなどを調整するためのものです。フロントフォーク回転部ががたついたり、回転が重い場合は販売店にご相談ください。

■サドルの高さ調整

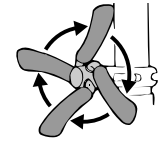


警告

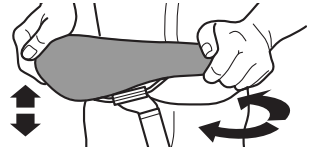
■はめ合せ限界標識が見えるまで上げない



■カムレバーを回転させて締めつけない



■調整後は必ずがたつきやずれがないか点検をする



シートポストが折れたり、カム機構が動かなくなって転倒によるけがのおそれがあります。

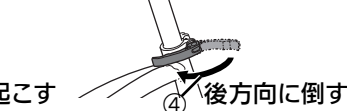
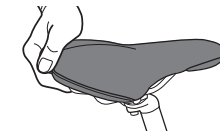
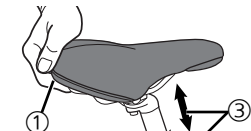
■サドルの上面が傾いたまま走行しない



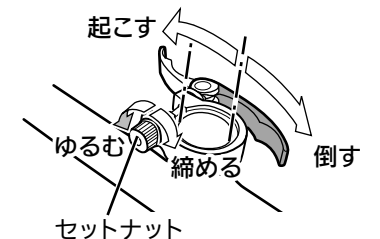
サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。

●高さとの調整

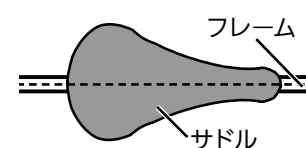
- ①サドルを支え持つ。
- ②カムレバーを前方向に起こす。
- ③サドルの高さと向きを調整する。
- ④カムレバーを後方向に倒す。



カムレバーを後方向に倒してもサドルが固定できない時は、カムレバーを前方向に起こして、セットナットを締める方向に 0.5 ~ 1 回転回し、再度、カムレバーを後方向に倒して、サドルが固定されている事を確認ください。

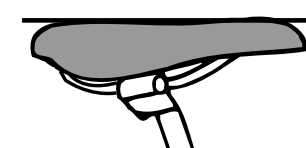


●正しい方向



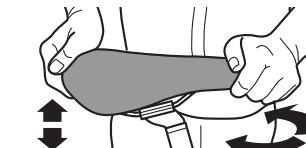
フレームと平行に合わせる。

●正しい角度



サドルの上面と地面を平行にする。

●サドルの点検



上下・左右交互に強い力を加え、がたつきやずれがないこと。

お願い

- さび付きを防止するために、シートポスト(立パイプに挿入されている部分)に、薄くグリスを塗ってください。
- サドル上面が傾いたままご使用されますと、サドル固定ボルトが折れる場合がありますので、正しく調整してください。
- 角度の調整は販売店にご依頼ください。

乗るまえの点検と調整(4)

わからないときは、販売店にご相談ください。

■タイヤ(前後とも)

●適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約 4 cm(600 kPa) 程度が、適正です。圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。

お知らせ

- 空気圧が少ないとパンクや、タイヤ、リムを損傷させる原因になります。
- 長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- タイヤバルブの型式は、仏式です。

●空気の入れ方

タンク付高圧ポンプをご使用ください。
圧力計のついたポンプでは、タイヤ側面の空気圧表示を目安にしてください。

仏式バルブの扱い方

プランジャーナットを 3～4 回転ゆるめ、プランジャーナットを押して、空気を少し抜いてから空気を入れてください。

この部分は細いので折らないようにご注意ください。

アダプター (後タイヤバルブにセットしてあります) を使えば、一般の英式口金の高圧手押しポンプが使えます。

お願い

- 空気を入れ終わったらプランジャーナットを必ず閉めてください。

〈参考〉タイヤ側面の空気圧表示

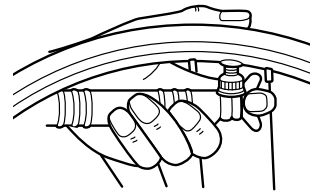
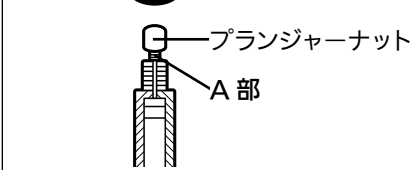
kPa 表示	620
(PSI 表示)	90
{kgf/cm ² 表示}	6.2

※ (PSI 表示) と {kgf/cm² 表示} は、参考として示したものです。

●フレームポンプ(インフレーター) を使用される場合

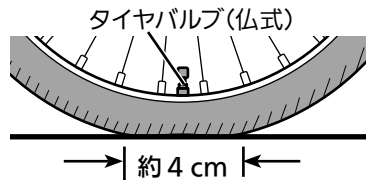
プランジャーナットを反時計方向に回してゆるめ、プランジャーナットを押して、空気を少し抜いてから、ポンプをさしこみます。(後車輪の場合は、タイヤバルブにセットしているアダプターを外してから) この時、A 部は細いので折らないようご注意ください。

締める ゆるめる

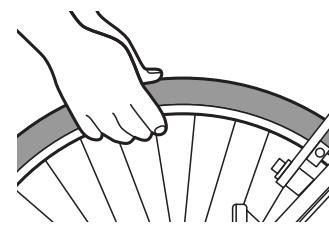


お願い

- 空気を入れ終わったらプランジャーナットを必ず閉めてください。



●タイヤの点検

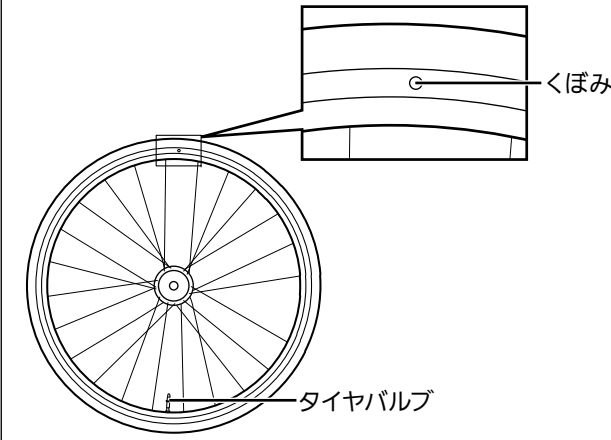


切傷や亀裂がないこと。
摩耗していないこと。

■リム(前後とも)

●リム交換の目安

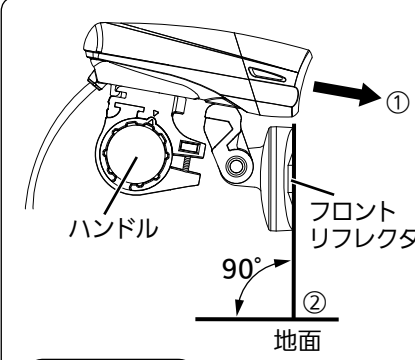
タイヤバルブの反対側についているくぼみがリムの摩耗目安表示です。このくぼみが見えなくなったら新しいリムと交換してください。



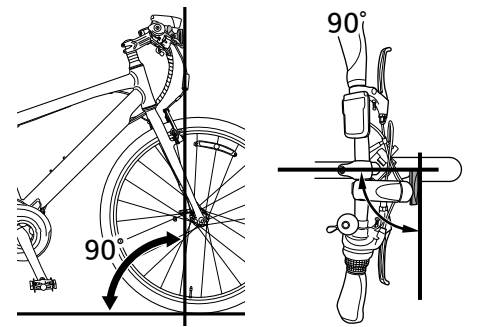
お願い

- リムの交換は販売店に依頼してください。

■バッテリーライト、フロントリフレクターの角度調整



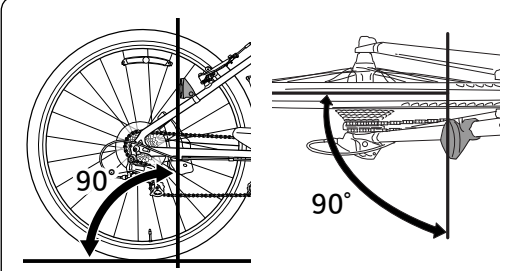
- ①バッテリーライトが、前方 10 m の路面を照らす角度になっているか確認してください。
- ②フロントリフレクターの反射面が地面および前車輪に対して直角になっているか確認してください。



お願い

- バッテリーライトの角度を変更すると、フロントリフレクターの角度も変わってしまうため必ずライト角度調整後、フロントリフレクターの角度調整をおこなってください。

■リヤリフレクターの角度調整



反射面が地面および後車輪に対して直角になっているか確認してください。

お願い

- 直角になっていない場合は、販売店にご相談ください。

乗るまえの点検と調整(5)

わからないときは、販売店にご相談ください。

■ブレーキの調整(販売店に依頼してください)



警告

■ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいままで走行しない



ブレーキが効かなくなったり、効き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
●ブレーキが効かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■調整後は、ロックナットを必ずもとどおり確実に締めつける



ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ブレーキ操作の練習を充分行なう

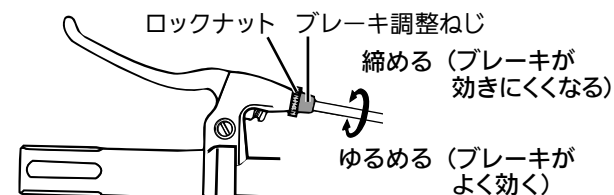


強くレバーを握ると、ブレーキの効きすぎによる前転倒等によるけがのおそれがあります。
●時速 10 km/h 程度で、繰り返しブレーキ操作を練習し、ブレーキ特性を充分体得してから徐々に速度を上げてください。

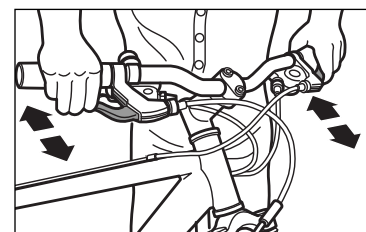
※下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。販売店でブレーキワイヤを張り直すなど、点検・再調整を行ってください。

●ブレーキレバーの調整

ブレーキが効きにくい場合には、ロックナットをゆるめて、ブレーキ調整ねじで調整した後、ロックナットを必ずもとどおり確実に締めつけてください。
それでも効かない場合は、販売店で調整を依頼してください。

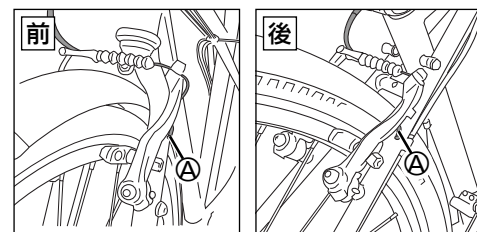


●ブレーキレバーの点検



通常の力で引いて、レバーとにぎりの間隔が 2 cm ～ 3 cm あること。(前後とも)

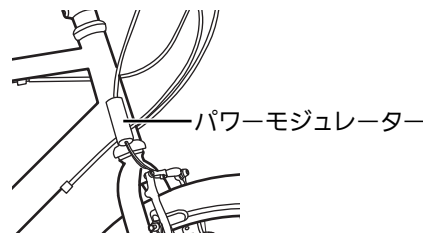
●ブレーキワイヤ(前後とも)の点検



ワイヤが切れかかっていないこと。
ワイヤの先端 ㊤ に、キャップがついていること。

●パワーモジュレーター

前ブレーキには、急激なブレーキングでもブレーキがロックしにくいパワーモジュレーターを装着しています。



■バッテリーライトの取扱い



警告

■ライトの取付がゆるんだまま、走行しない



照射位置が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■走りながら、照明ボタンの操作をしない



衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●一旦停止して、操作してください。

■夜間や視界の悪いときは点滅状態や無灯火で乗らない

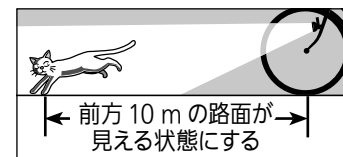
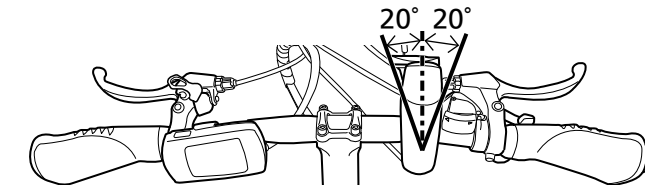


衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●ライトがつかないときは、押して歩いてください。
点滅状態や無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

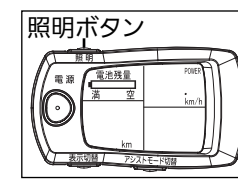
●角度の調整

バッテリーライトは左右各 20° ずつ方向を変えることができます。運転者から前方 10 m の路面を照らすような角度に調整してください。

締付トルク：
0.6 N・m ～ 0.7 N・m {6 kgf・cm ～ 7 kgf・cm}



●点灯方法



①照明ボタンを押すとバッテリーライトが点灯します。
②再度照明ボタンを押すと消灯します。

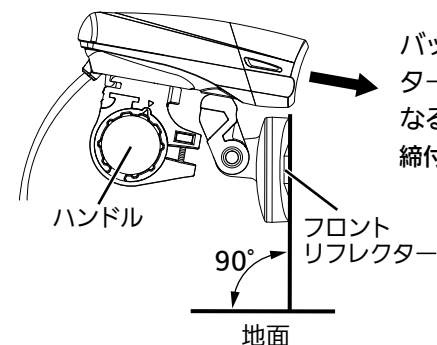
※バッテリーライトはマルチコントロールサイクルメーターの電源の入切に関係なく点灯・消灯することができます。

※停止して約 10 分経つと、自動的に消灯します。

※詳しくは別紙「マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書」をご覧ください。

バッテリーライトの角度調整後、フロントリフレクターの反射面が地面および前車輪に対して直角になるように調整してください。

締付トルク：0.7 N・m {7 kgf・cm}



お知らせ

- 内部の LED は基板直付のため交換はできません。
- アシストがなくなっても、バッテリーライトは点灯しますが、しばらくするとゆっくり点滅してから消灯しますので点滅状態になったら降りて押してください。
- レンズは取り外せません。無理に取り外すと、本体が壊れる原因になります。
- バッテリーライトは規定角度以上動かさないでください。無理に動かすと、組付部が破損するおそれがあります。

乗るまえの点検と調整(6)

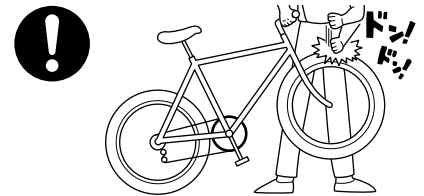
わからないときは、販売店にご相談ください。

■車輪の着脱方法(クイックリリースハブ)



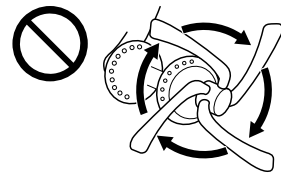
警告

■車輪固定確認(取付後は外れないか確認する)



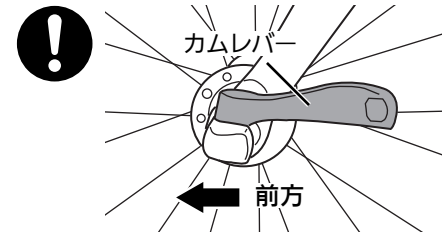
車輪が外れて、転倒によるけがのおそれがあります。

■フレームに車輪を固定するとき、カムレバーを回転させない



クイックリリースのカム機構が動かなくなり、車輪が外れて転倒によるけがのおそれがあります。

■前カムレバーは進行方向と逆方向に、後カムレバーは進行方向に倒す

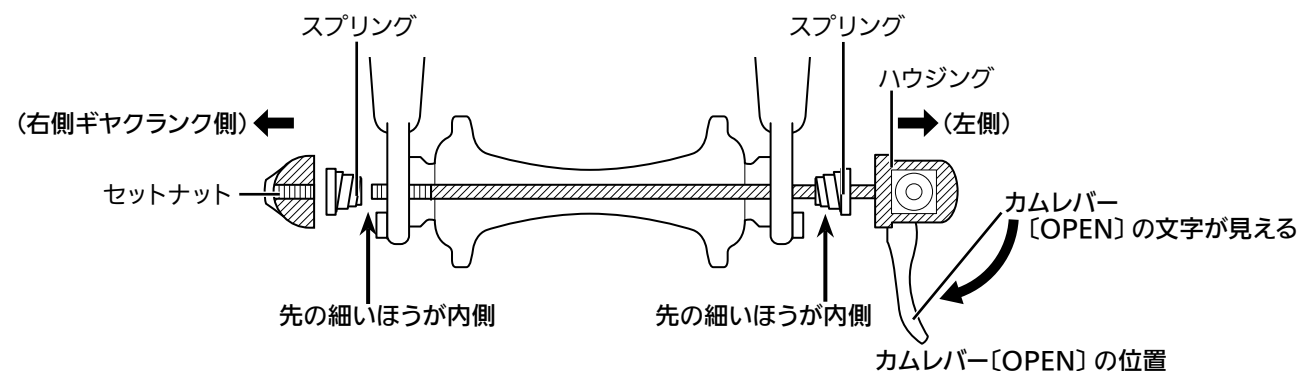


走行中、ロックが解除されて、転倒によるけがのおそれがあります。

お願い

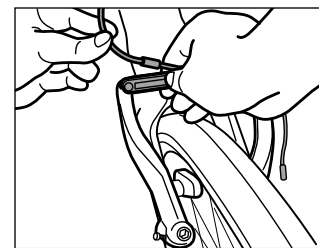
●初めてクイックリリースハブを使われる方は、販売店から説明を受けながら実際に操作し、よく練習してから行ってください。操作後は車輪が外れないか確認してから乗車してください。

●クイックリリースハブの構造(カムレバーを開いた状態)

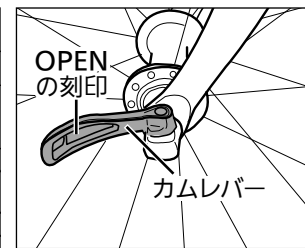
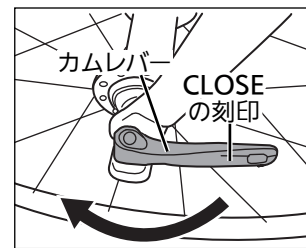


●外し方

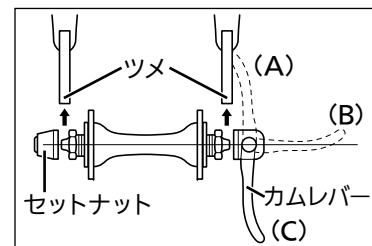
①前ブレーキワイヤを外す。



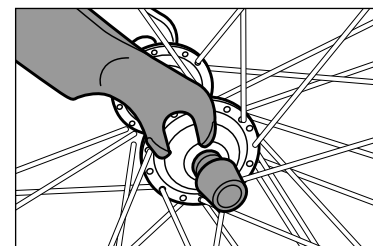
②カムレバーの OPEN の刻印が見える位置(C)へ倒す。



③セットナットをゆるめる。

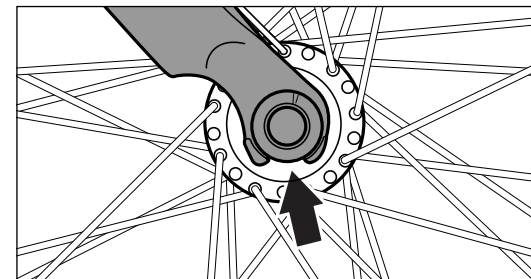


④前車輪を外す。

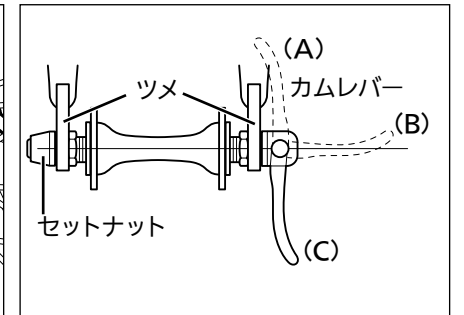
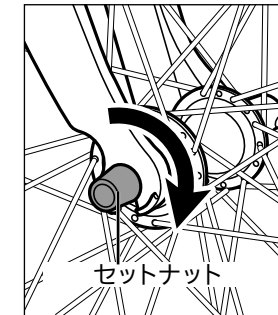


●取付け方

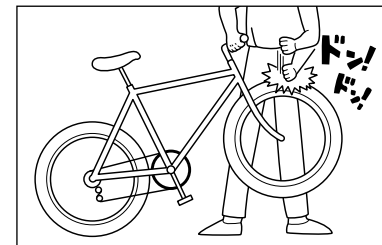
①カムレバーを開け(C)の状態にして、フロントフォークのツメの奥までしっかりとめこむ。
※カムレバーは自転車の左側です。



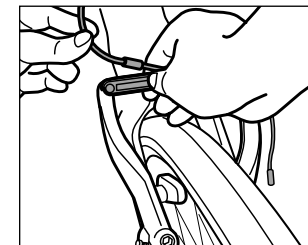
②カムレバーを半分ぐらい閉じた位置(B)位で、固くなるようセットナットを締めて調整する。



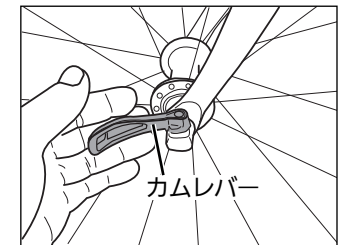
③カムレバーを OPEN の位置(C)にした状態で、前車輪を浮かせ強くたたき外れないか確認する。



④前ブレーキワイヤを取付け、前ブレーキが確実に効くことを確認する。

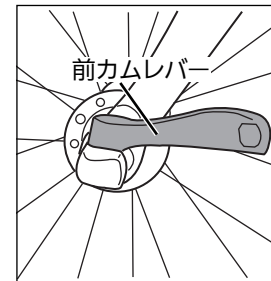


⑤フロントフォークのツメの奥まで、しっかりとめこんで、カムレバーの CLOSE の刻印が見える位置(A)へ手のひらが痛くなるくらい力いっぱい強く倒す。



押し力:
(5 ~ 7.5) N・m
{(50 ~ 75) kgf・cm}

⑥前カムレバーを進行方向と逆方向に、後カムレバーは進行方向に倒す。



お知らせ

●後車輪を取り外しするときも前車輪と同様の手順で行ってください。チェーンをトップギヤに入れると外しやすくなります。

お願い

●後カムレバーがチェーンステーエンド部(左図●部)等に接触する場合はその場所を避け、確実にレバーが倒れる位置にしてください。
●後車輪のタイヤが駆動ユニットに当たって後車輪が外しにくい場合は空気を少し抜いてください。

■走行距離の目安

●新測定方法			
(社) 自転車協会が定める電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(2010 年 4 月 1 日施行) に基づき測定			
走りかた	走行条件		走行距離(km)
			10203040
<div>標準パターン</div> <div>(業界統一新テスト条件)※</div> <div></div>	<div>標準パターン(4 km)</div> <div>Aは、平坦路 1 km、 変速 Ⅷ、15 km/h</div> <div>Bは、4 度坂 1 km、 変速 Ⅴ、10 km/h</div> <div>Cは、平坦路 1 km、 変速 Ⅷ、15 km/h</div> <div>Dは、4 度坂 1 km、 変速 Ⅷ、20 km/h</div> <div>●印は 10 秒間の停止を表す</div>	パワーモード	36 km
		オートマチック	38 km
		エコモード	49 km
		パワーモード	12 km
		オートマチック	12 km
		エコモード	16 km
<div>4 度登坂連続パターン</div> <div></div>	4 度坂、変速 Ⅴ、10 km/h	パワーモード	
		オートマチック	
		エコモード	

※(社) 自転車協会が定める電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準に準拠したテスト条件。
記載する一充電当たりの走行距離の測定条件は、以下の通りです。(業界統一新テスト条件)

- 1) 環境温度は 20 ± 5 ℃、無風の状態
- 2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
- 3) 車載重量(乗員と荷物の合計) は 65 kg
- 4) 路面は乾燥した平滑な路面
- 5) タイヤ空気圧は標準空気圧 600 kPa
- 6) シャーシダイナモ(室内計測機) による計測
- 各アシストモードの詳細については、36 ページをご覧ください。
- 走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。
また冬期など気温が低いときにも短くなります。(P.33 ページ)

〈参考〉その他の走行パターンによる測定

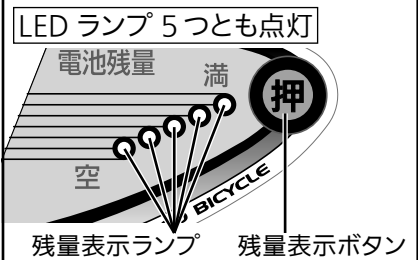
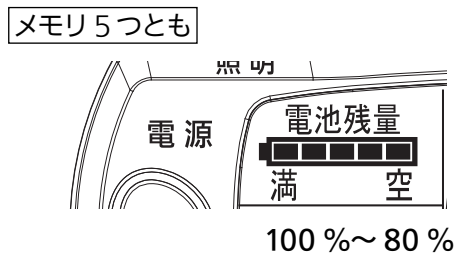
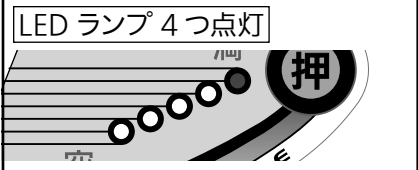
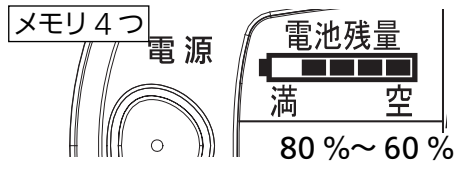
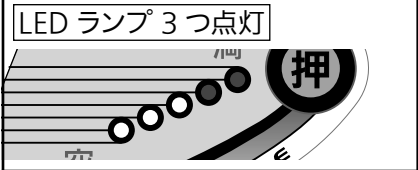
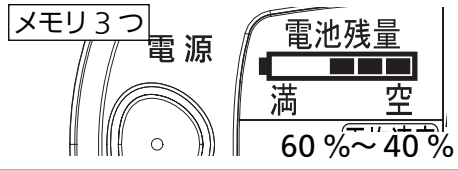
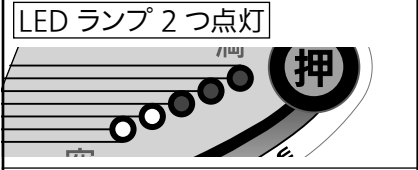
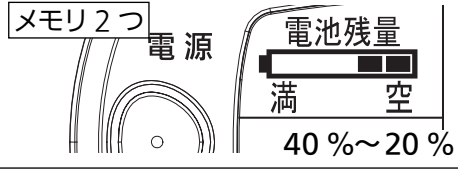

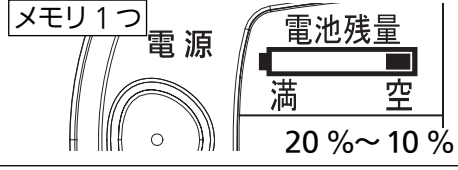

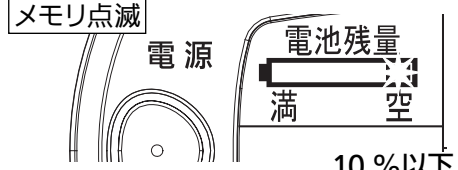
走りかた	走行条件	走行距離
平坦路連続走行 	平坦路、変速 Ⅷ、15 km/h	標準パターンの 210% (オートマチック)
2 度登坂連続走行 	2 度坂、変速 Ⅴ、10 km/h	4 度登坂連続パターンの 190% (オートマチック)

乗るまえの確認(2)

わからないときは、販売店にご相談ください。

■バッテリーの残量 バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの容量が、どの程度残っているか、またはどの程度充電されているかを知ることができます。
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプが、残量を表示します。
(あくまでも目安としてご使用ください。)










バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	マルチコントロールサイクルメーター 残量表示部の表示状況
LED ランプ 5 つとも点灯 	100 % ~ 80 %	メモリ 5 つとも 
LED ランプ 4 つ点灯 	80 % ~ 60 %	メモリ 4 つ 
LED ランプ 3 つ点灯 	60 % ~ 40 %	メモリ 3 つ 
LED ランプ 2 つ点灯 	40 % ~ 20 %	メモリ 2 つ 
LED ランプ 1 つ点灯 	20 % ~ 10 %	メモリ 1 つ 
LED ランプ 1 つ点滅 	10 % ~ 0 %	メモリ点滅 

※マルチコントロールサイクルメーターのバッテリー(電池) 残量表示は、残量が 0(空) になると、1 個点滅表示から、消灯(非表示) になります。

お知らせ

- バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、または、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに、残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このような時は、再度充電してください。
- バッテリー残量が少ない状態で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

■走行距離が短くなる環境 / 使い方

 冬期、寒いとき ^{※1}	 坂道が多いとき	 向かい風が強いとき ^{※2} や 走行速度が速いとき
 乗員体重、積載質量(荷物) が重いとき ^{※3}	 発進、停止、加減速の回数が多いとき	 路面の状態が悪い(凸凹みち) とき
 タイヤの空気圧が低下しているとき	 ペダルが重くなる走り方(例: 重い変速位置(ギヤ) で走行)、急加速をしたとき	 バッテリーライトを長時間点灯したとき

※1 冬期(寒い環境 約 5℃以下) では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇒ バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。

※2 風速 2 m/s の向い風中を走行した場合、約 40 %、走行距離が短くなります。

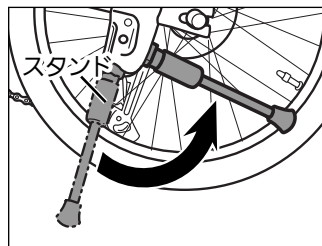
※3 積載質量(乗員体重) が 10 kg 増えた場合、約 10 %、走行距離が短くなります。

- 充電回数の増加や使用期間が長くなることでバッテリーの容量が少なくなり、走行距離が次第に短くなります。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。
⇒ 乗車前にバッテリーの残量確認を心掛けてください。
- そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗り方などにより、大幅に短くなることがあります。

さあ、乗りましょう！(1)

わからないときは、販売店にご相談ください。

1. スタンドを上げ、乗車する。

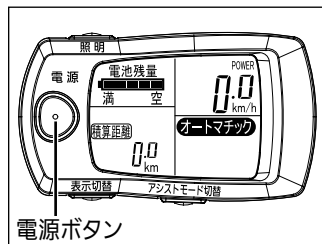


スタンドを後方へ完全にはね上げる。

お知らせ

- スタンドを立てたまま乗車しないでください。スタンドが壊れるおそれがあります。

2. ペダルを踏まずに電源を入れる



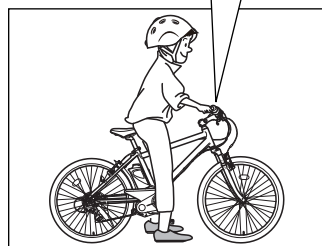
マルチコントロールサイクルメーターにある電源ボタンを押す。
バッテリー残量表示部が現在のバッテリー残量を表示し、各データを表示します。

お願い

- マルチコントロールサイクルメーターの走行速度部に E1 が表示される時はペダルに踏力を掛けずに電源を入れ直してください。詳しくは別紙『マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書』をごらんください。

お知らせ

- 停止して約 10 分経つと、自動的に電源が切れます。(オートオフシステム)
再度走行する時は、電源を入れてください。



3. 発進する



ハンドルをしっかり握ってから、前後左右の安全を確認し、ペダルを踏んで発進する。(電動補助システムが働き、作動音がします。)

警告

■けんけん乗り(けり乗り) しない



- 転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。
- 必ずサドルにまたがって、発進してください。
- ※けんけん乗り(けり乗り) とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

お願い

- 電源ボタンを押した時にマルチコントロールサイクルメーターの残量表示部の残量表示が表示されない場合は、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
- 慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
- 土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
- 走行途中では電源を入れないでください。
- 停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
- 走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

- 走行中は、ラジオ等に雑音が入る場合があります。
- ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
- ワイヤレス式のスピードメーターなどでは、誤表示となる場合があります。

■乗車について

警告

■乗車したまま段差の上り下りはいししない



- スタンドが段差にひっかかり、転倒によるけがのおそれがあります。
- 自転車から降りて押してください。

■走行中は、マルチコントロールサイクルメーターに気を取られないで安全走行を心がける



- 転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■スピードをだしすぎない



- 衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■ブレーキのかけかた

警告

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない



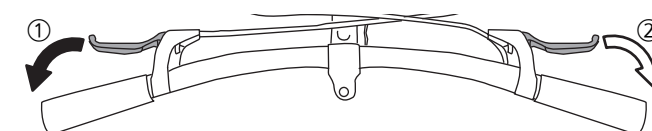
- ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■前ブレーキだけを強くかけない



- 車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれがあります。

- ① 後ブレーキを先にかけてから
- ② 前ブレーキをかける。



お願い

- 急な坂道のときは、降りて押してください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がすぎないように走行してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

■変速のしかた

●シフトレバー

右手の人さし指を使って引く操作が最適です。

ペダリングが重くなる
1→2→3→4→5→6→7→8

ペダリングが軽くなる
8→7→6→5→4→3→2→1

右手の親指を使って上から押す操作が最適です。

お願い

- 変速操作は、よく練習してください。
- 変速時は、ペダルの踏力を少なくして変速してください。(スムーズに変速できます。)

●シフトインジケータの表示位置と後ろギヤの関係

シフトインジケータの表示位置

後ギヤの位置

下り坂・追い風
ペダリングが重くなる

上り坂・向い風
ペダリングが軽くなる

■アシストモードの切り替えかた(マルチコントロールサイクルメーター)

アシストモード(「オートマチック」・「パワーモード」・「エコモード」・「アシストなし」)の切り替えは、電源が入っていれば、アシストモード切替ボタンを押すだけで切り替え(矢印順)ができます。

アシストモード

「オートマチック」……走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールします。

↑

「パワーモード」……常にパワフルなアシスト力で、坂道や重い荷物を積んでいる時でも快適な走行ができます。

↑

「エコモード」……走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールし、さらにアシスト力を抑え、一回の充電で長距離走行が可能です。

↑

「アシストなし」……アシスト力は働きません。

●アシスト力の変化

スタート 平地 上り坂 急な上り坂 下り坂 平地

モード設定／走行条件	走行条件とアシスト力					
	スタート	平地	上り坂	急な上り坂	下り坂	平地
『オートマチック』	強	中	強	強	オフ	中
『パワーモード』	強	強	強	強	オフ	強
『エコモード』	中	弱	中	中	オフ	弱
『アシストなし』	オフ	オフ	オフ	オフ	オフ	オフ

お知らせ

- 電源を入れた時は、前回電源をOFFした時のモードで起動します(オートメモリー機能)。坂道や重い荷物を載せて走行する時は、アシストモード切替ボタンを押し、「パワーモード」にしてください。
- 電動アシスト自転車になれるまでは「エコモード」で走行してください。
- 下り坂等でペダルが軽くなると、すべてのモードで自動的にモーターが止まり無駄な電力消費を抑えます。
- 詳しくは別紙「マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書」をご覧ください。

■変速機の手順な使いかた (標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力にあわせ、適切な変速位置をお選びください。)

推奨変速位置

平地を走るとき…

●後ろギヤを6から8の位置にあわせる。

発進するときは、1から2にあわせると楽です。

上り坂のとき…

上り坂の手前で…

●後ろギヤを3から5の位置にあわせる。

きつい上り坂のときは、1から2にあわせると楽です。

下り坂のとき…

下り坂の手前で…

●後ろギヤを7または8の位置にあわせる。

- 楽な走行をするには…
- タイヤの空気圧はいつも適切にしてください。(P.24 ページ)
 - 軽めの変速位置を選んでください。(特に発進と上り坂。)
 - 変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調等によって、最適の位置を選んでください。

警告

■漕ぐ力を抜いて、ペダルを空転気味に軽く回転させながら変速操作をする

！ 間違った変速操作をすると事故によるけがのおそれがあります。

- 初めて変速機を使われる人は、よく練習してください。

■次のような変速はしない

- ペダルを止めたままの変速
- 停止しているときの変速
- ペダルを逆転させながらの変速
- ペダルを強く踏みこみながらの変速
- シフトレバーを無理に操作する変速
- 一度に2段以上する変速

事故によるけがのおそれがあります。

■積載条件について



■乗る前にリヤキャリア締付部の固定を確認する

！ リヤキャリアが後車輪に巻き込んで、転倒によるけがのおそれがあります。

●リヤキャリアに緩み・ガタ等の異常が確認されたときは、ご販売店にご相談ください。

■荷物が確実に固定されていることを確認する

！ ひもやベルトが後車輪に巻き込んで、転倒によるけがのおそれがあります。

■積載条件を超えない荷物でも、通常より重い荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で、充分練習してから乗車する

！ バランスを崩したり、ブレーキの効きが悪くなり、転倒によるけがのおそれがあります。

■荷物を積むときは、リヤリフレクターが隠れないように積載する

！ 事故によるけがのおそれがあります。

■積載条件から外れる荷物を積まない

⊘ リヤキャリアやフレームが破損し、転倒によるけがのおそれがあります。

■リヤキャリアを変造および改造はしない

⊘ 部品が破損したり、外れて転倒によるけがのおそれがあります。

＜積載条件＞

最大積載質量	
バスケット(別売オプション)	リヤキャリア(別売オプション)
2 kg まで	10 kg まで
前後合わせて 12 kg まで	

積載物の大きさ限度	
バスケット(別売オプション)	リヤキャリア(別売オプション)
バスケットにおさまる大きさ ※夜間走行の際は、バッテリーライトの光をさえぎらない高さまで。(バスケットの高さ以上は積載しない)	幅 : リヤキャリアの幅まで 長さ: リヤキャリアの長さまで 高さ: リヤキャリアから 15 cm まで

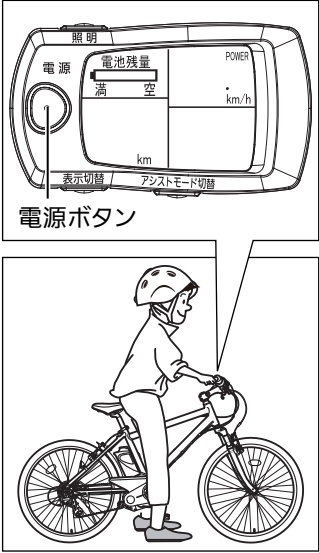
- お願い
- 荷物の運搬には、リヤキャリアおよびバスケット以外は使用しないでください。(フロントキャリアに直接荷物を積まないでください。)
 - バスケット・リヤキャリアをご使用の際は、当社の純正オプション部品(バスケットセット: NCB1853S、リヤキャリアセット: NCR1247S) を装着してください。

- お知らせ
- 容量の大きいバスケットやキャリアに交換しても最大積載質量は同じです。
 - 荷物の積載量が増えると、バッテリーの電力消費が増え、アシスト走行できる距離が短くなります。また、タイヤなどの消耗品の劣化が激しくなります。

■幼児用座席のご使用について

- この電動アシスト自転車に、幼児用座席を取り付けることはできません。

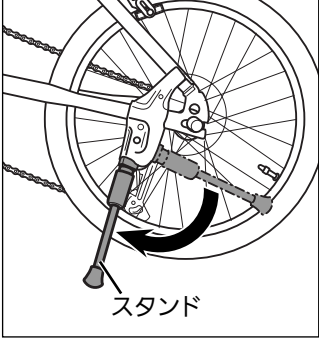
1. 自転車から降りる前にマルチコントロールサイクルメーターの電源を切る



マルチコントロールサイクルメーターにある電源ボタンを押して、電源を切る。
液晶表示が消灯し、同時に各計測データも自動的に計測を停止します。
詳しくは別紙『マルチコントロールサイクルメーター取扱説明書』をごらんください。

- お知らせ
- バッテリーライトを点灯させて、アシストなしで走行する場合は、電源を切らずにアシストモードを切り替えて、アシストなし(非表示)モードで使用してください。

2. 駐輪する



ブレーキを握ったまま、サドルから降りる。
スタンドを立てる。

3. ワイヤ錠で施錠する

- お願い
- 駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。
 - 盗難防止のため、必ず施錠して駐輪してください。

バッテリーについて

バッテリー

■バッテリーの種類

- リチウムイオンバッテリーを使用しています。
- この自転車には、メモリー効果の心配がなく、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

品 番

- 仕様表でご確認ください。(P. 52 ページ)

■バッテリーの交換・廃棄

- お買い求めの販売店にご相談ください。



大部分の素材がリサイクル可能です。貴重な資源を守るために、使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーは、廃棄しないで販売店にお持込いただくかリサイクル協力店にご相談ください。弊社は小形充電式バッテリーの回収・リサイクルを実施する「一般社団法人 JBR C」に参画し、リサイクル活動を推進しています。リサイクル協力店をお探しの場合は下記ホームページよりご検索ください。(http://www.jbr c.com)

■交換時期の目安

- バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に電池能力が低下し、走行できる距離が短くなります。目安として、350 ～ 450 回の充放電で購入時の約半分になり、使い方によっては交換が必要になります。

お知らせ

- 1 回の充電で、走行できる距離が著しく短くなったときが、交換の時期です。(購入時の約 50 %以下)
- 冬期(約 5℃以下)や寒い環境下では、一充電あたりの走行距離が短くなります。これはバッテリーの特性上の現象で、気温が高くなると走行距離はもとに戻ります。
- バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、満充電して保管してください。
- 周囲気温が 0℃～ 40℃の場所で保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、最低 3 か月に 1 回は充電してください。
- バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、LED ランプが点灯しない場合、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
- 長期間保管後に再使用するときは、予めバッテリー残量を確認し、不足している場合は必ず充電してください。

お知らせ

- バッテリーが劣化する条件(以下のような条件では劣化が早まります)。
 - ・放置期間が長く、使用頻度が低いとき
 - ・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
 - ・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管をしたとき

運搬／保管／廃棄

運 搬



警告

■持ち運びの際にはバッテリーをはずす

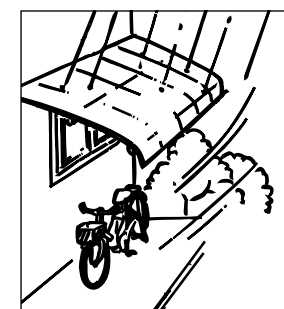


自動車への積載時等、持ち運びの際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれがあります。

保 管 ／ 廃 棄

■保管場所

- 安定のよいところ。
- 風通しがよく、湿気の少ないところ。
- 雨つゆや直射日光が当たりにくいところ。



■タイヤの管理

- 空気を適正空気圧まで入れてください。(P. 24 ページ)

■長期間保管する場合

- ごみやほこりがつくのを防ぐため、「サイクルカバー(別売オプション)」の使用をおすすめします。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりがつかないように、付属の端子カバーを装着してください。(端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります。)(P. 16 ページ)

■バッテリーの保管

- バッテリーの保管については 40 ページをご覧ください。

■廃棄するとき

- 自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
- 使用済みの充電式バッテリーは、お早めに廃棄しないで販売店にお持込いただくかリサイクル協力店にご相談ください。(資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう。)

お手入れ／注油について

お手入れ

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
- 洗車は、しないでください。
- がんこな汚れには、台所用洗剤(中性)を薄めてご使用ください。



■湿気の多い所や海岸沿いでのお手入れ

- さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ステンレス部品

- ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。下記の点にご注意の上ご使用ください。
 - 付着した鉄粉などがさびることによってステンレス自身もさびる「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください。(例：鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品等)
 - ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いた後でもさびが発生しますので、水を含ませた布等でしっかりふき取ってください。

お願い

- 駆動ユニットやバッテリー、マルチコントロールサイクルメーターは生活防水性能を備えていますが、直接圧力がかかるような洗車や、水をかけながらの洗車はしないでください。駆動ユニットやバッテリー内部に水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水に浸かった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用になるとバッテリーの取外しが固くなる場合があります。これは、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなるためです。バッテリーの取外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、ショートするおそれがありますので、金属製の物は使用しないでください。
- バッテリーケースの汚れは、水を含ませた布などでふき取ってください。
- シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。(塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されます。)
- サドルには、ワックスをかけないでください。(座ったとき衣服が汚れたり、すべります。)
- 雨天走行後は、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください。(黒く変色するのを防ぎます。)

注油について



警告

■リムやブレーキブロック(ゴム部) には、油をつけない



注油禁止



ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

注油場所と注油禁止場所



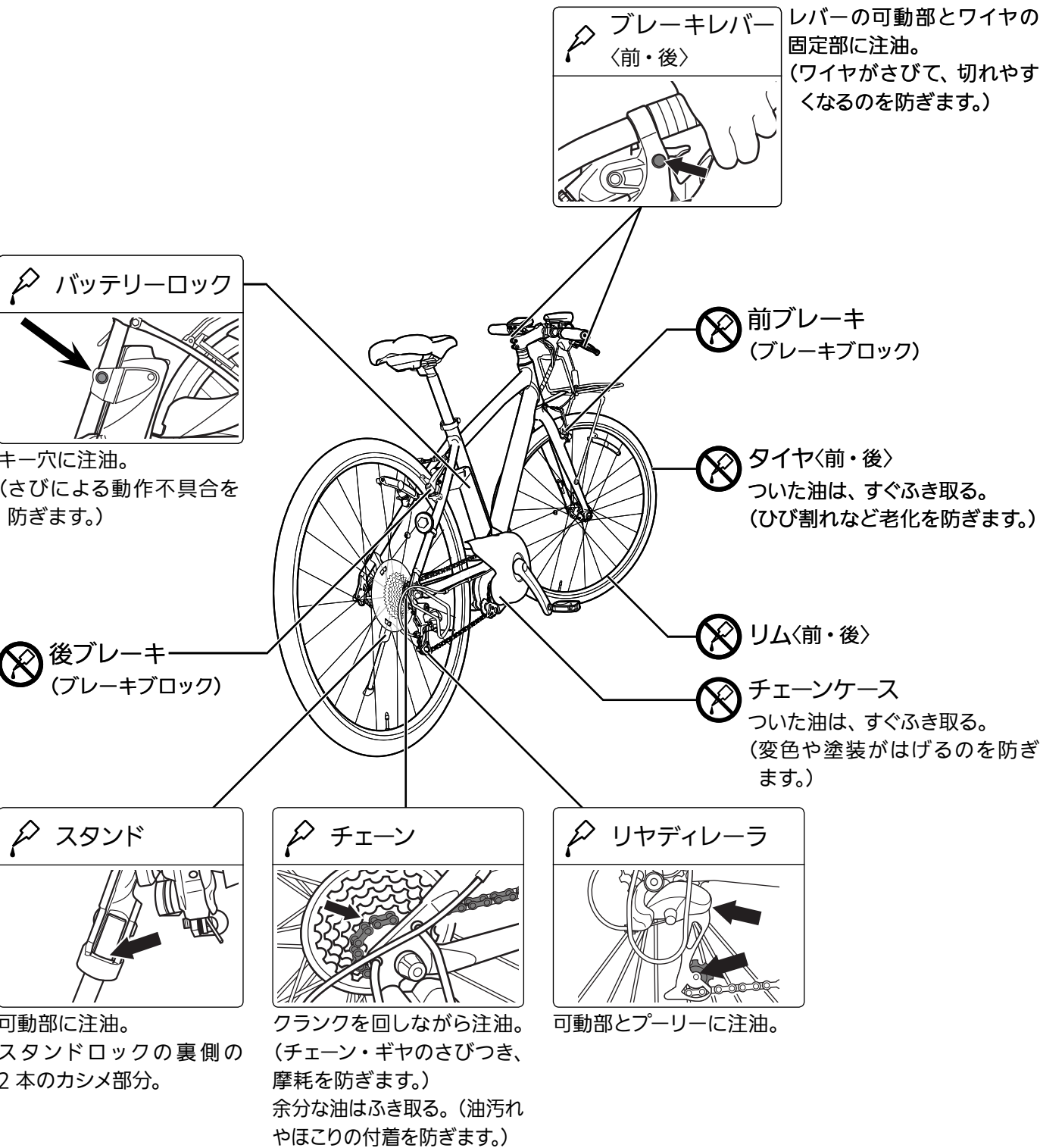
このマークは、注油場所を示します。



このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

- 油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。(食用油などは、硬化するおそれがあります。)
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。



定期点検



警告

■定期点検は、必ず実施する

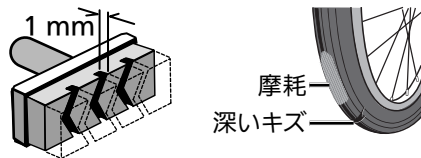


異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれがあります。

■部品の交換は、次の基準で実施する



- ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても2年に1回は、交換する。
- タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなる前に交換する。
- ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mmになる前に交換する。
- ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。



ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるけがのおそれがあります。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。

いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回(2 か月以内)点検と、6 か月毎の定期点検の実施をお願いします。(裏表紙の点検・整備チェックリストにて実施をお願いします。)

●初回(2 か月以内)の点検と整備

お買い上げ2 か月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。

必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくはそれと同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

●2 回目以降(6 か月毎)の点検と整備

安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

アフターサービス(修理を依頼されるとき)

自転車が故障したときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

●保証期間中は、



- 保証対象かどうか(無償修理か有償修理か)は、お買い上げの販売店で自転車と品質保証書の内容を確認した上で、判断させていただきます。
- インターネットなど通信販売でお買い上げの場合も、まず販売店にご相談ください。出張修理や補修部品の直接販売は弊社では行なっていません。

●保証期間が過ぎた後は、



お買い上げの販売店にご相談ください。

自転車安全基準

この自転車は(社)自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

「自転車安全基準」は、(社)自転車協会がJIS(日本工業規格)をベースに、DIN(ドイツ規格)など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制(RoHS 指令)を踏まえて、消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。

BAAマーク



「BAA マーク」は、自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車に、貼ることができるマークです。

「BAA マーク」は、自転車のバッテリーロックキー付近に貼付されています。

※ BAA= 自転車協会認証 -BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

点検整備済TSマーク(保険付き)のご紹介



点検 年 月 日

- 工場出荷時に貼付しているTS マーク(※ 15 ページ)には、保険は付帯されていません。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付き TS マーク(左図) が別により、お客様のご希望により貼付することができます。
- 保険付き TS マークは、自転車安全整備店(TS マーク取扱店) で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車であることを確認した上で貼付することができます。
- 費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店(TS マーク取扱店) にご相談ください。

お願い

- 点検 年 月 日が記入されていない場合は、必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されないことがあります。

故障かな？！(1)

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症 状	対 処 方 法	ペー ジ
ペダルが重い・アシストしない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇨バッテリーを確実に取り付けてください。	16 ～ 18
	▶ ●バッテリーの残量表示ボタンを押したときに、2・4 番目の LED ランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇨バッテリーを充電してください。	—
	▶ ●バッテリーの残量表示ボタンを押したときに、LED ランプがすべて点灯しない場合、保護機能が働いています。 ⇨バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	▶ ●マルチコントロールサイクルメーターの残量表示部が点滅をしたり、点灯しない	16 ～ 18
	▶ ●充電ができていますか？ ⇨バッテリーを充電してください。	34
	▶ ●バッテリーの残量は充分ですか？ ⇨バッテリーの残量を確認してください。	
	▶ ●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇨電源を一旦切り、ペダルを踏まないで電源ボタンを押して、電源を入れてください。 ※ E1 表示のままでは距離などの計測データは記録されず、アシストモード切替ボタンを押してもアシストモードは切り替わりません。（アシスト力は働きません）	—
	▶ ●マルチコントロールサイクルメーターの走行速度表示部に E1 が表示される	
	▶ ●駆動ユニットの異常です。 ⇨販売店に修理をご依頼ください。 ※ E9 表示のままでは距離などの計測データは記録されず、アシストモード切替ボタンを押してもアシストモードは切り替わりません。（アシスト力は働きません）	—
	▶ ●マルチコントロールサイクルメーターの走行速度表示部に E9 が表示される	
補助(アシスト) が切れたり入ったりする	▶ ●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇨変速を軽にするなどを行い、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。	—
	▶ ●バッテリーの温度が著しく高いときおよび低いとき、保護モードに入っています。 ⇨しばらくそのまま走行していただくと、正常に戻ります。 ※(低温時・炎天下時での乗車など) 保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	
	▶ ●停止して 10 分以上たっていないですか？(オートオフシステム) ⇨電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	34

症 状	対 処 方 法	ペー ジ
液晶表示がおかしい	▶ ●速度表示が 0 km/h のままで走行しても変わらない	—
	▶ ●センサーとマグネットの間隔が離れすぎていませんか？	別 紙
	▶ ●センサー指示線とマグネットのセンターがずれていませんか？ ⇨マグネットとセンサーの位置を調整し直してください。	別 紙
	▶ ●平均速度算出のためのデータ容量が不足しています。 ⇨平均速度をリセットしてください。電源が入った状態かつ積算距離以外の表示にし表示切替ボタンを長押し(約 3 秒) すると、走行距離、平均速度、最高速度がリセットされ新たに計測を開始します。 ※ E 表示のままでは走行距離などの計測データは記録されませんが、アシスト力は働きます。	別 紙
充電できない	▶ ●マルチコントロールサイクルメーター内のマイコンが何らかの原因で誤動作しています。 ⇨オールクリアしてください。マルチコントロールサイクルメーター裏面のオールクリアボタンと表示切替ボタンを同時に押すと初期状態になり、積算距離も含め、計測保持データがすべてゼロに戻ります。タイヤ周長を設定し、走行してください。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	別 紙
	▶ ●バッテリーが正しく挿入されていますか？ 充電器のバッテリー挿入部がよごれていませんか？ ⇨よごれを取り除き、バッテリーを正しく挿入してください。	16 ～ 18
補助(アシスト) しない	▶ ●満充電ではありませんか？ ⇨バッテリーの残量表示ボタンを押して、チェックしてください。満充電からの再充電はできません。 一度使用してから、充電してください。	—
	▶ ●残量表示ボタンを押した時、LED ランプが流れるように点滅する場合はバッテリーの故障が考えられます。 ⇨販売店にご相談ください。	—

故障かな？!(2)

症 状	対 処 方 法	ペー ジ
走行距離が短い	●充電ができていますか？ ●長期間使用せずに、放置されていませんか？ ⇨バッテリーを充電してください。	16 ～ 18
	●初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇨バッテリーを充電してください。	16 ～ 18
	●道路条件や変速位置、苛酷な走行により、走行距離が、短くなります。	30 ～ 31
	●冬期は、バッテリーの特性上性能の低下が大きくなります。	33
	●タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇨自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	24
	●ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇨ブレーキの調整をしてください。	26
マルチコントロールサイクルメーターの残量表示部が短い走行で点滅を始める	●繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化(性能低下)します。 ⇨1回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合(新品時の約50%以下)は、新しいバッテリーに交換してください。	40
バッテリーや充電器が熱くなる(発火の心配)	●充電中、充電器は多少熱くなります。 ⇨異常ではありません。	—
	●手で触れられないほど熱い場合は、異常です。 ⇨ただちに使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない	●充電途中で電源プラグを抜きましたか？ ⇨再度充電してください。	16 ～ 18
	●充電器の端子が汚れていませんか？ ⇨乾いた布等で清掃してください。	—
	●長期間使用されたバッテリーですか？ ⇨バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	—
ペダルに振動を感じる	●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性ですので、故障ではありません。	—

必要なとき



盗 難 補 償

盗難補償制度とは、電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様を対象に、ご購入日より3年以内に盗難にあわれた場合、盗難車本体(充電器除く)の希望小売価格(税込)の30パーセントと組立手数料4,200円(税込)で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記の通りです。

ご購入時、保証書のお客様欄に必要事項をご記入され、保証書のメーカー控(返送用)を返送日付をご記入の上、パナソニック サイクルテック保証書返送係にご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償がうけられます。

(1) 盗難補償の期間と範囲
お買い求めの日から3年間の自転車(別売部品等を含む装着部品の盗難は除く)かつ、盗難日より90日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

(2) 盗難補償の内容
■お客様のご負担 ①充電器を除く本体の希望小売価格(税込み)の30%
②組立手数料 4,200円(税込み)

(3) 盗難補償の申込み要領
■提出書類等 ①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの(警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書等)
②盗難車の保証書
③盗難車のキー(3本)
④盗難補償申込書(販売店が用意いたします。)
■申込み先 ⑤お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
⑥追って、販売店から新車を、お渡しいたします。

(4) 盗難車の所有権
盗難車が発見された場合は、その所有権は当社に帰属することを同意の上お申し込みください。

(5) 盗難補償ができない場合
①施錠せず盗難にあった場合 ②(3)の書類およびキーがそろわない場合
③防犯登録がされてない場合 ④補償期間が過ぎている場合
⑤景品などの贈呈品の場合 ⑥盗難補償車が再度、盗難にあった場合
⑦保証書のメーカー控(返送用)が返送されていない場合 ⑧盗難車が見つかり、返ってきた場合

ご 注 意

●生産等の都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。

必要なら

取 付 け の ポ イ ン ト

- 安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください。
(当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります。)
- オプション部品の品番は都合により変更することがありますので、取付けの際に、販売店にご確認ください。
(掲載している品番は2011年3月現在のものです。)
- 価格等詳細については、販売店にご相談ください。

バスケットセット NCB1853S(ブラック)

警告

■積載条件から外れる荷物を積まない
(バスケット積載条件)
●大きさ: バスケットにおさまる大きさ
●重 さ: 2 kg まで
バランスを崩して、転倒によるけがのおそれがあります。
※フロントキャリアを装着しないと取り付けできません。

リヤキャリアセット NCR1247S

警告

■積載条件から外れる荷物を積まない
幅 : リヤキャリアの幅まで
長さ: リヤキャリアの長さまで
高さ: リヤキャリアから15cm まで
重さ: 10 kg まで
バランスを崩したり、ブレーキの効きが悪くなり
転倒によるけがのおそれがあります。
※この電動アシスト自転車に幼児用座席を取り付けることはできません。

バッテリー NKY325B02(8 Ah 品)

どろよけセット(前後とも) NDD5043S(シルバー)

サイクルカバー
※ SAR135 ~ 136
前後裾絞り(強力合成ゴム使用)
裾中央ナップ棒止め

必要なら

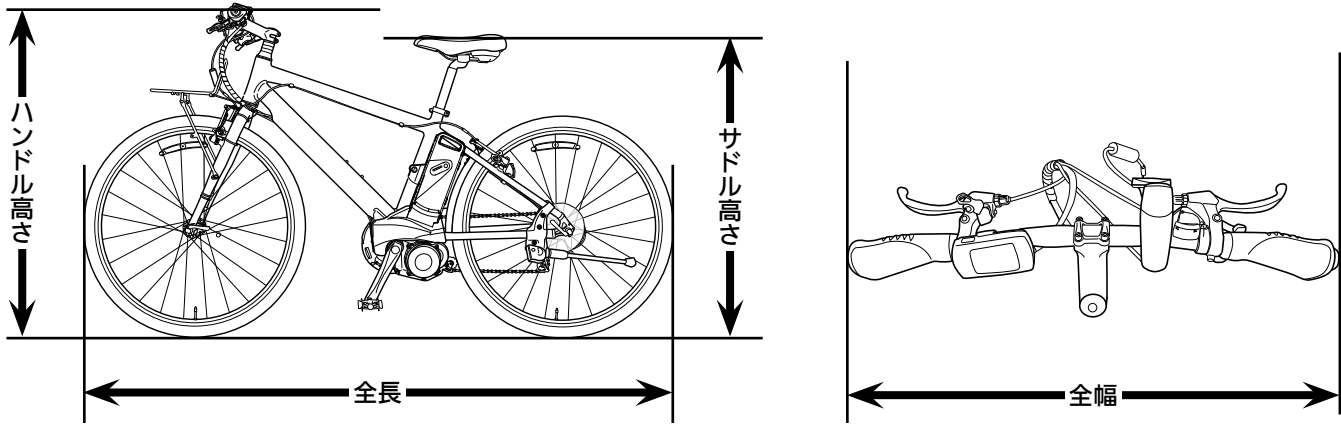
品 名		ジェッター	
品 番		BE-ENHC344	BE-ENHC349
寸法	全 長	1,830 mm	1,840 mm
	全 幅	570 mm	
	ハンドル高さ	945 mm ～ 975 mm	990 mm ～ 1,020 mm
	サドル高さ	800 mm ～ 955 mm	840 mm ～ 995 mm
	タイヤ (前/後)	タイヤ表示 : 32-622 (28 × 1 5/8 × 1 1/4)※1 呼称 700×32 C	
	軸間距離	1,135 mm	1,145 mm
総車両質量 (バッテリーを含む)		19.7 kg	19.8 kg
フレーム		ダイヤモンド形	
ハンドルバー		フラット形バー	
バスケット		オプション	
リフレクター		シートステー、バッテリーライト下部、前後車輪、ペダルに取付	
スタンド		1 本スタンド	
リヤキャリア		オプション	
補助速度範囲 変速Ⓔの位置		24 km/h 未満	
充電 1 回の走行距離 (標準パターン)		36 km※2 (パワーモード使用時)	
モーター形式 定格出力		直流ブラシレスモーター 250 W	
補助力制御方式		踏力比例制御	
バッテリー	品 番	NKY325B02	
	種 類	リチウムイオンバッテリー	
	容 量	25.2 V - 8 Ah (28 cells)	
	質 量	約 2.1 kg	
充電器	品 番	NKJ033	
	形 式	スタンド型	
	電 源	AC100 V (50 Hz / 60 Hz)	
	充電時間	約 4.5 時間	
	質 量	約 0.7 kg	
	消費電力	約 80 W	
	待機消費電力	約 1.5 W	
	充電できる バッテリー	NKY325B02 25.2 V - 8 Ah (28 cells)	
変速機方式		外装 8 段シフト	
駆動方式		チェーン出力方式クランク型	
制動装置	前 輪	カンチレバー V 形キャリパーブレーキ (パワーモジュレーター付)	
	後 輪	カンチレバー V 形キャリパーブレーキ	
照明装置		バッテリー式前照灯	
施錠方式		ワイヤ錠	
乗車適応身長		149 cm 以上	156 cm 以上

※1 タイヤ表示は32-622(28×1 5/8×1 1/4)ですが、700×32 Cと同じ規格です。(国際規格表示となっています。) チューブは 700 × 25/32 C サイズに適合しています。

※2 走行条件：環境温度は 20 ± 5℃、無風の状態、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量 (乗員と荷物の合計) は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。

- 乗車適応身長は、個人差がありますので、目安としてください。
- 寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
- 仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
- バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に電池能力が低下し、走行できる距離が短くなります。目安として、350 ～ 450 回の充放電で購入時の約半分になり、使い方によっては交換が必要になります。
- この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。

■寸法について



必要な仕様

必要な仕様

[illegible]